大正五年四月二日

組防消設公内管署察警手取

帖真寫念記習演大合聯

始

特100
48

記念寫眞帖序

古語ニ百聞ハ一見ニ如カスト宜ナル哉凡ソ百般ノ事業皆研究時代ハ現狀ヲ維持シ保守的自己本位ノ舊思想ハ退歩ヲ免カレサルベシ之レ這般取手警察署管下消防組聯合演習ヲ施行シタル所以ナリ余カ親友吉原格齊君操觚界ノ人當日來賓トシテ現狀ヲ參觀シ深ク感スル所アリ其ノ友谷口鐵太郎手塚仙之介ノ兩氏ト相謀リ後昆ニ紀念セムト寫眞帖ノ編製ヲ計劃シ序ヲ余ニ求ム内容ヲ閲覧スルニ記事ハ當時ノ狀況、參加消防組ノ沿革、出動人名ヲ詳錄シ、寫眞ハ能ク各組ノ動作眞景ヲ網羅シテ餘ス所ナク讀者ヲシテ一見現場ニアルノ念アラシム誠ニ恰好ノ紀念タルヲ失ハズ聊カ記シテ序トナス

大正五年四月十八日

於 取手警察署官舍南窻下

深谷倉三郎

大正
5. 5.
内交

岡田茨城縣知事

龜井警察部長

（故手塚眞雄氏寫眞）

大五
5.5.
內交

深谷取手警察署長

永作警部補

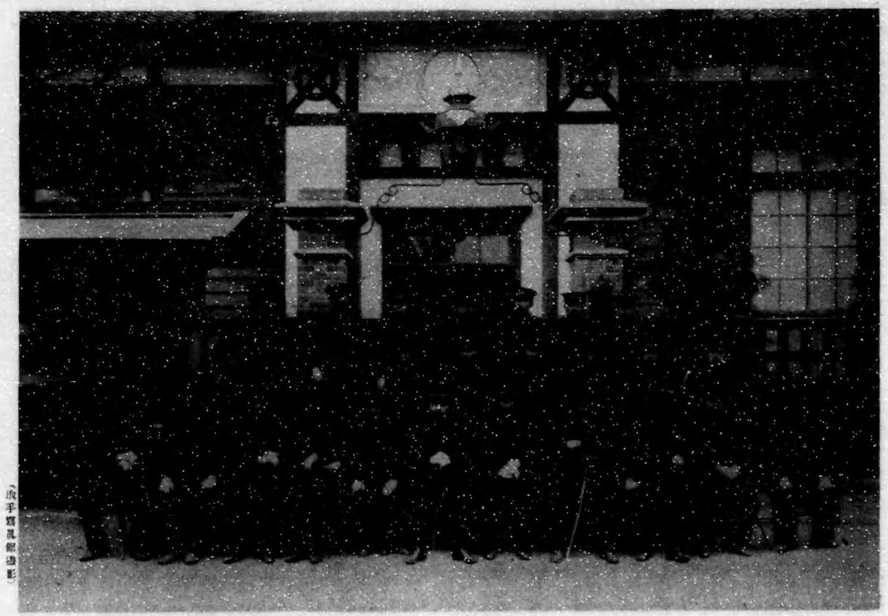
野木保安課長

白土巡査部長

佐川巡査部長

天童巡査部長

（取手臨高記念撮影）



[旅手寶風館撮影]

後列

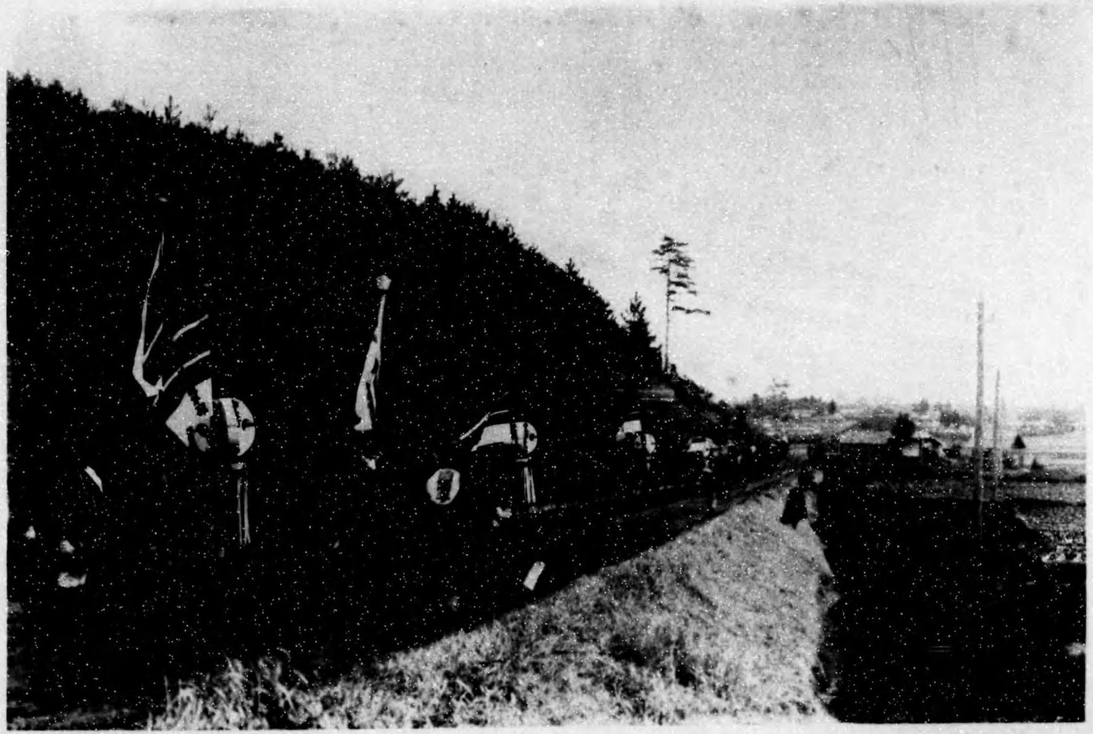
巡査谷田部佐四郎
仝　篠島秀之輔
仝　吉原益之助
仝　小澤豊
仝　豊田七郎
仝　池田重雄
仝　姪川兼吉
仝　藤岡清三郎

中列

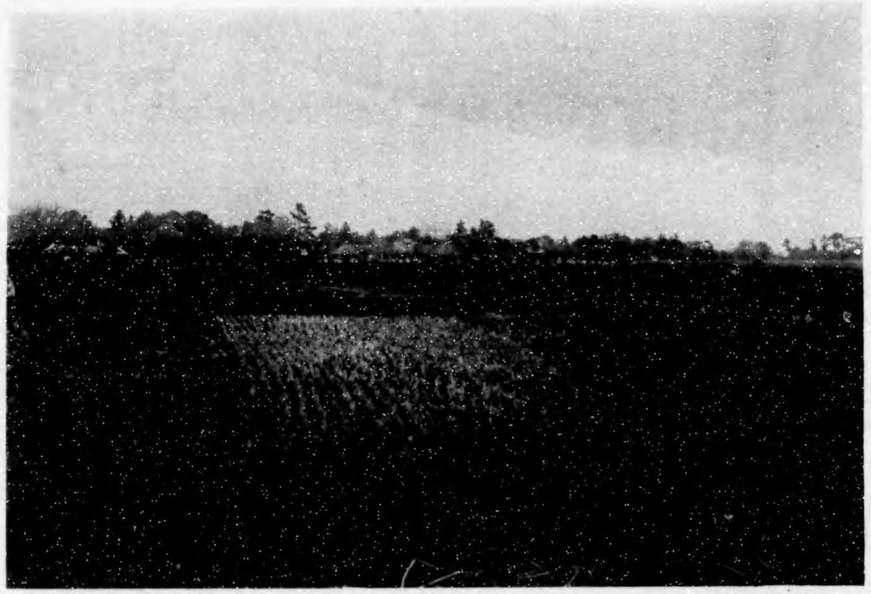
巡査松本壽
仝　神原信雄
仝　萩庭末壽
仝　田中留之介
仝　中川清壽
仝　丸山春吉
仝　大關米三郎
仝　箱田弘
仝　野澤新次郎
刑事巡査小山作次郎

前列

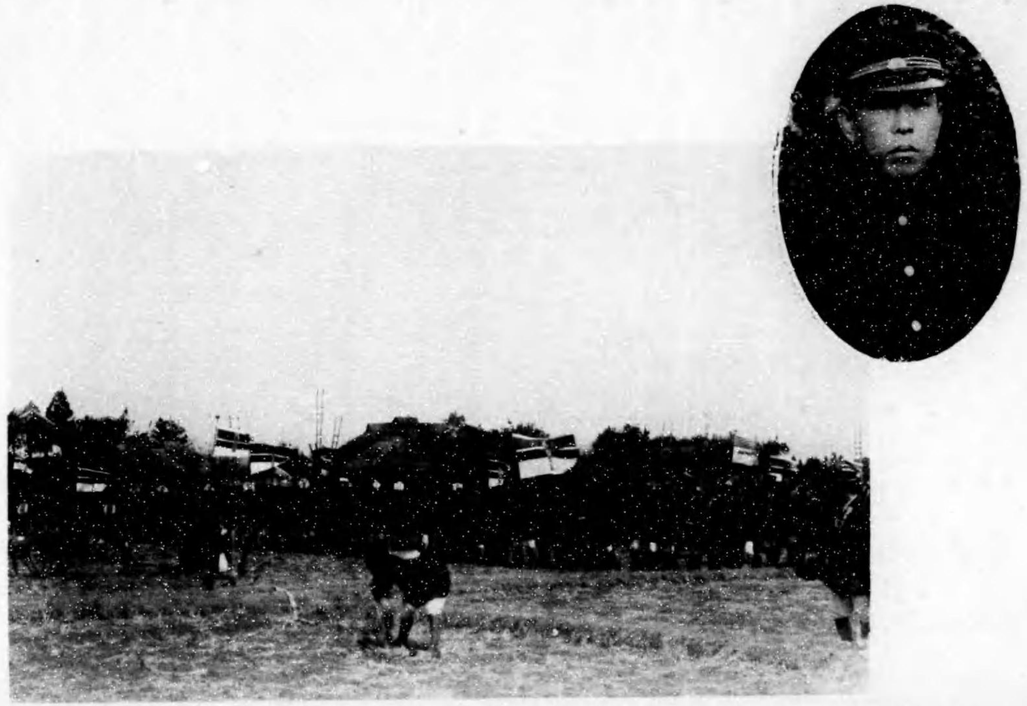
巡査鈴木忠次郎
仝　小室捨吉
仝　小田部米吉
巡査部長佐川久夫
警部補永作清一
警長
警部深谷倉三郎
巡査部長天童文五郎
仝　白土久松
巡査坂木安次
仝　野村喜一郎
仝　栗原酉之介



點檢官大歡迎の光景　（助手專眞寫撮影）

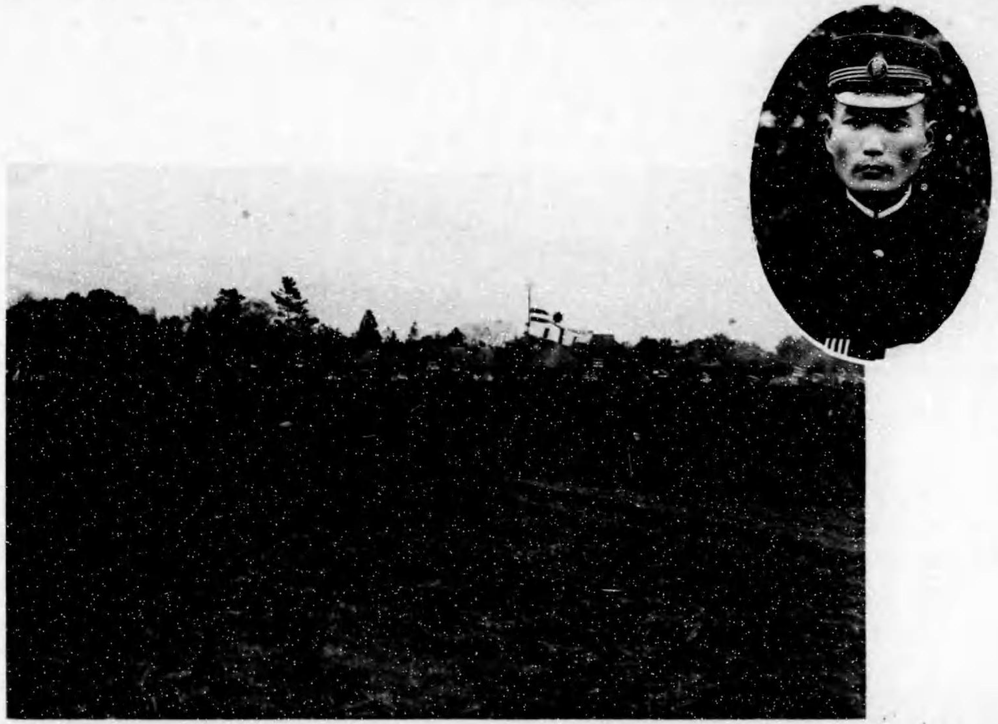


（出手寫眞撮影）　　點檢官式場に臨むの光景



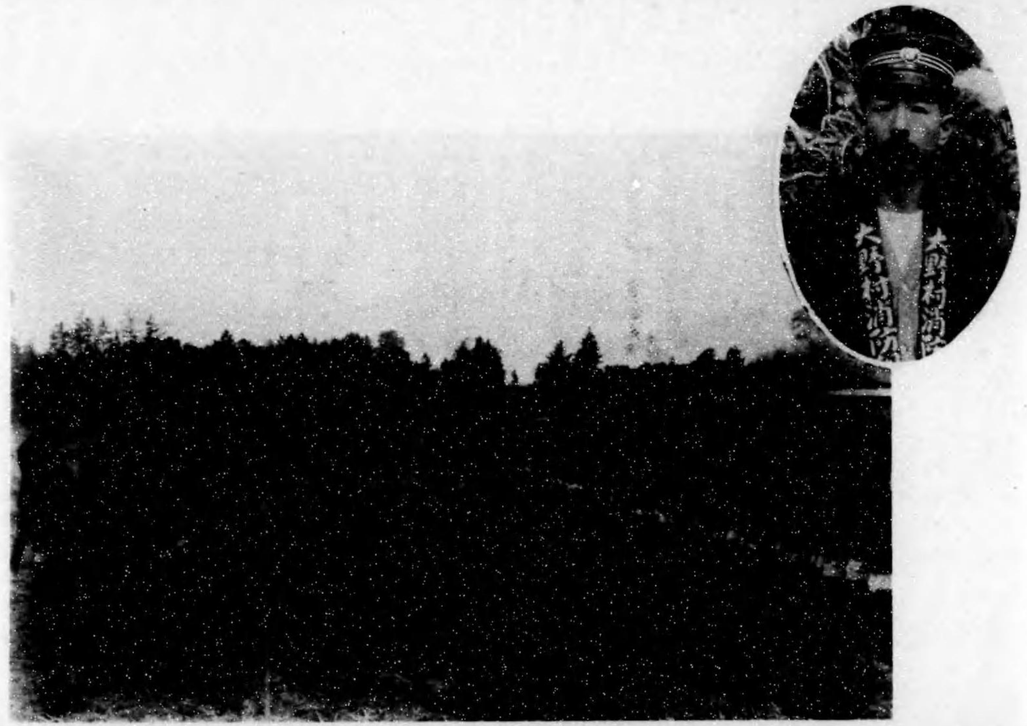
第一守谷組喇叭撰法の光景と齋藤組頭

（於千葉高等師範）



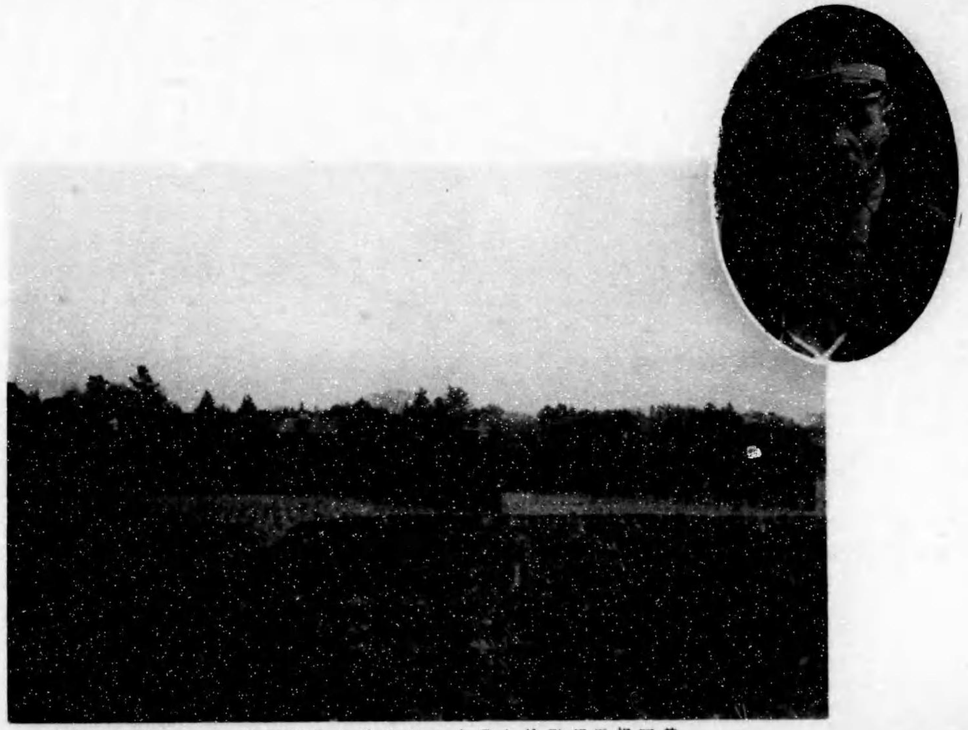
第二稻戸井組點檢を受くるの光景と中村組頭代理

（政手寫眞部撮影）

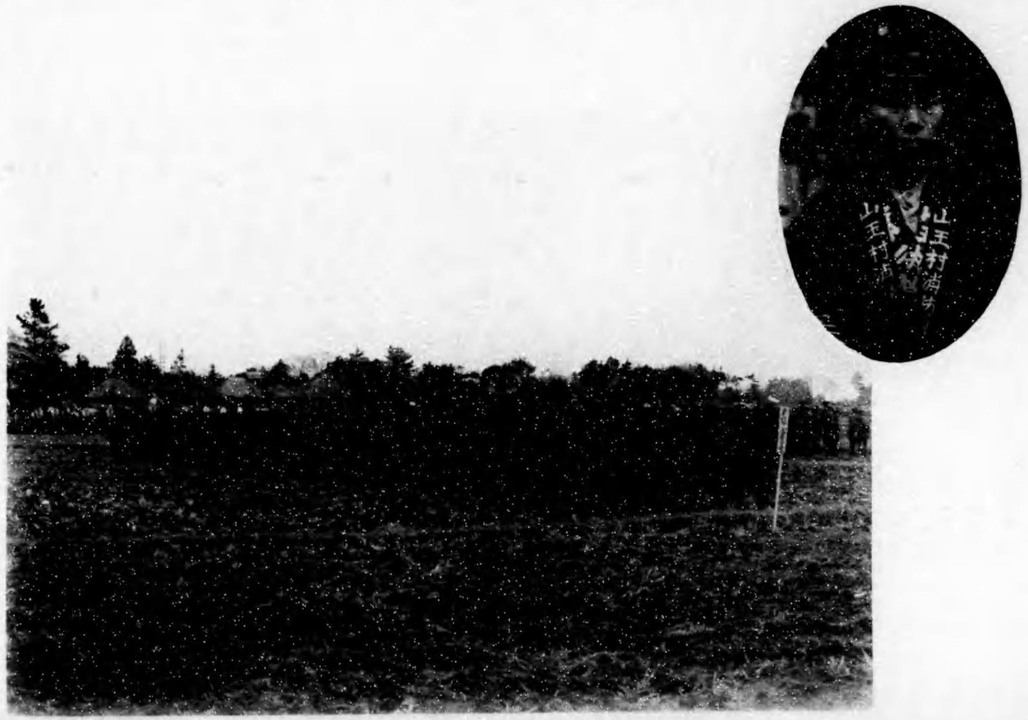


第三大野組點檢を受くるの光景と松丸組頭

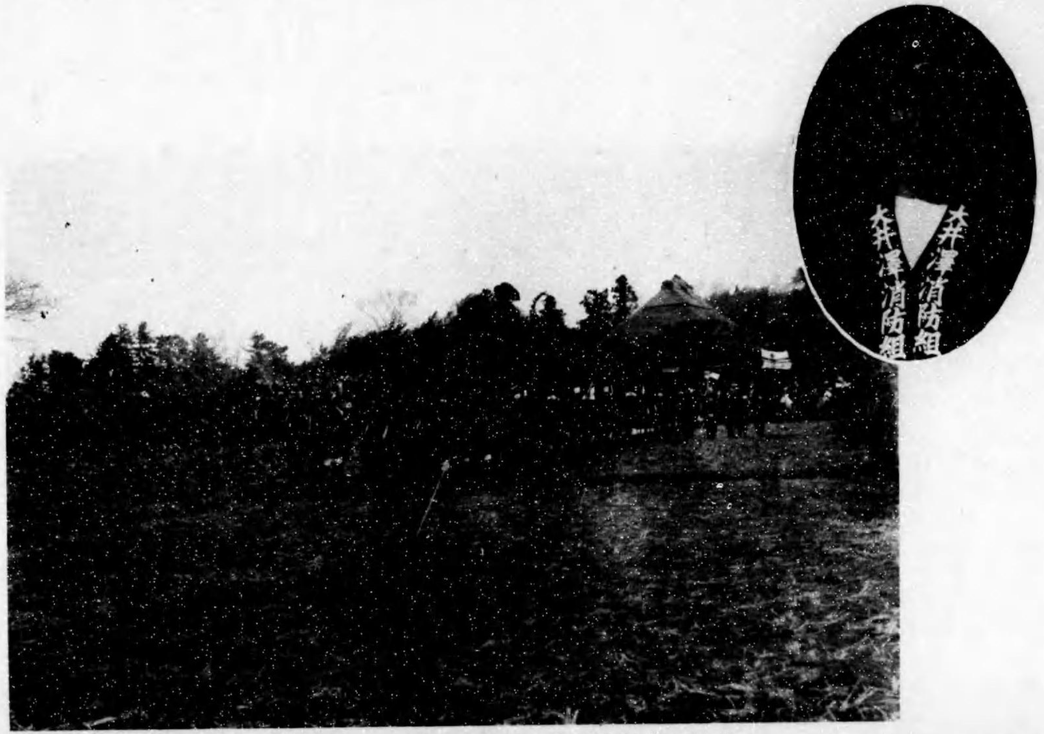
（於手賀眞鍋邸）



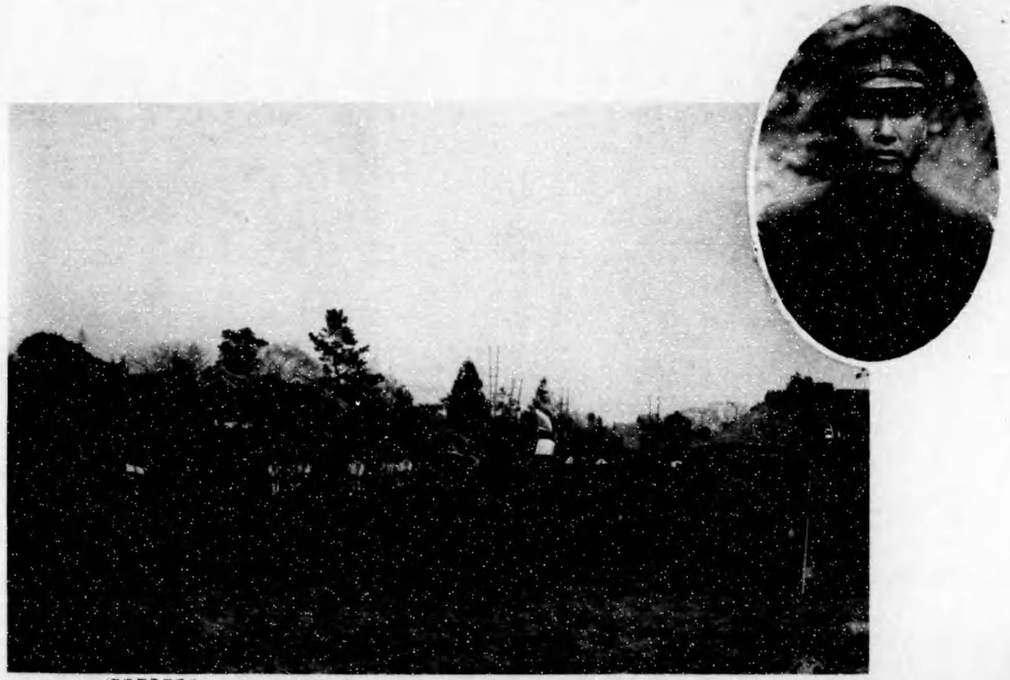
第四相馬組點檢を受くるの光景と日下組頭　（故手塚義雄撮影）



第五山王組點檢を受くるの光景と齋藤組頭　（北手尋長撮影）

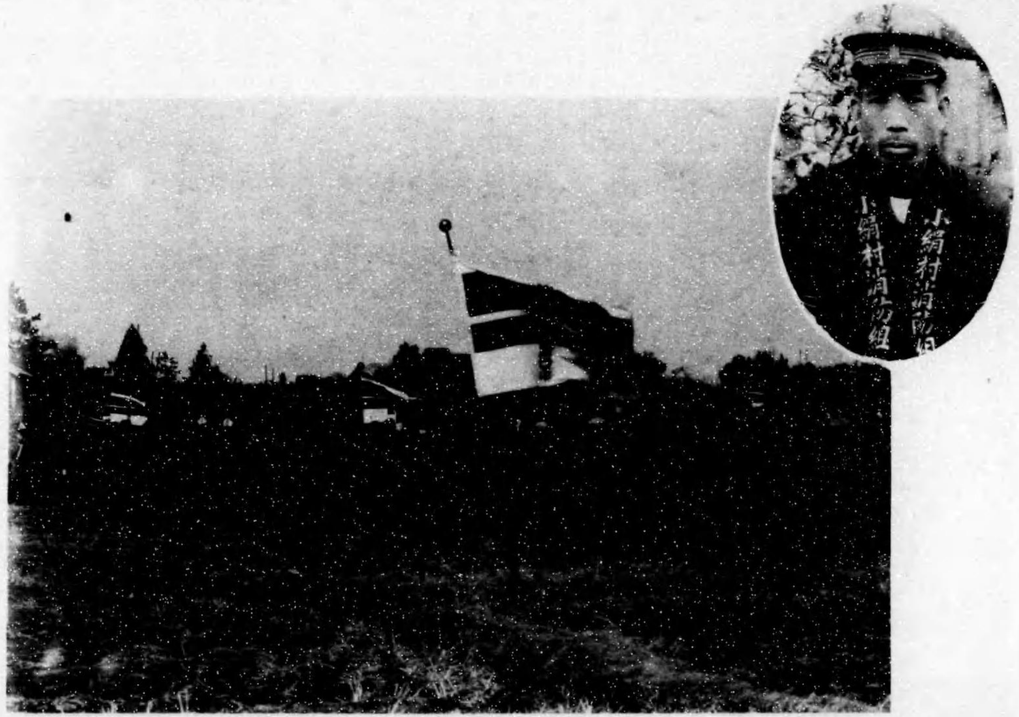


第六大井澤組點檢を受くるの光景と寺田組頭　（出手寫眞部撮影）



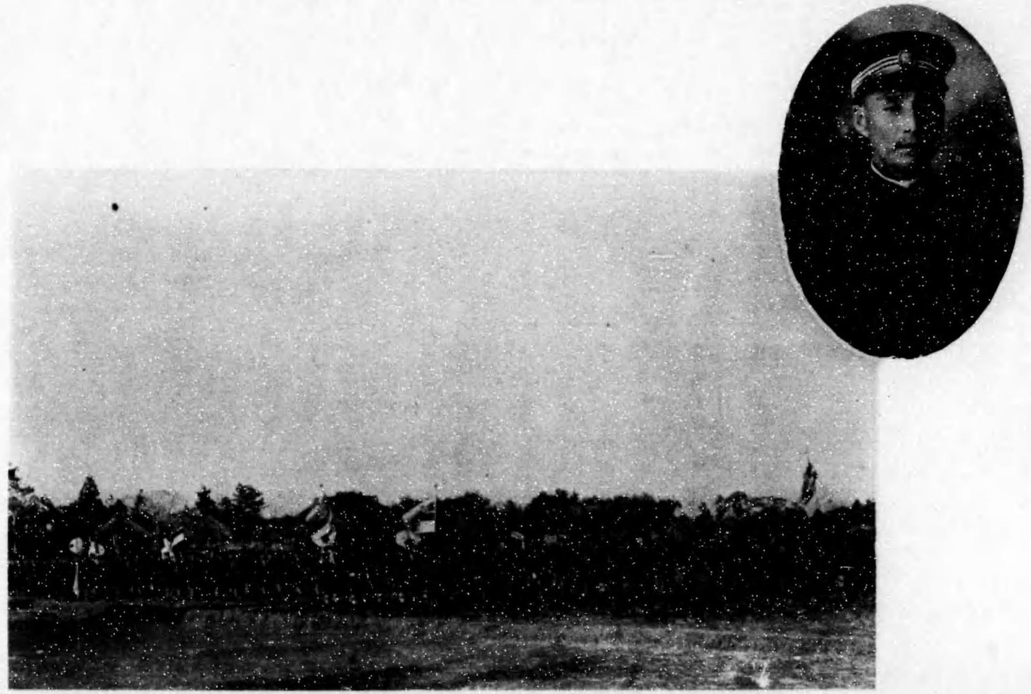
第七高井組喇叭操法の光景と廣瀬組頭

（於手賀眞鄰撮影）



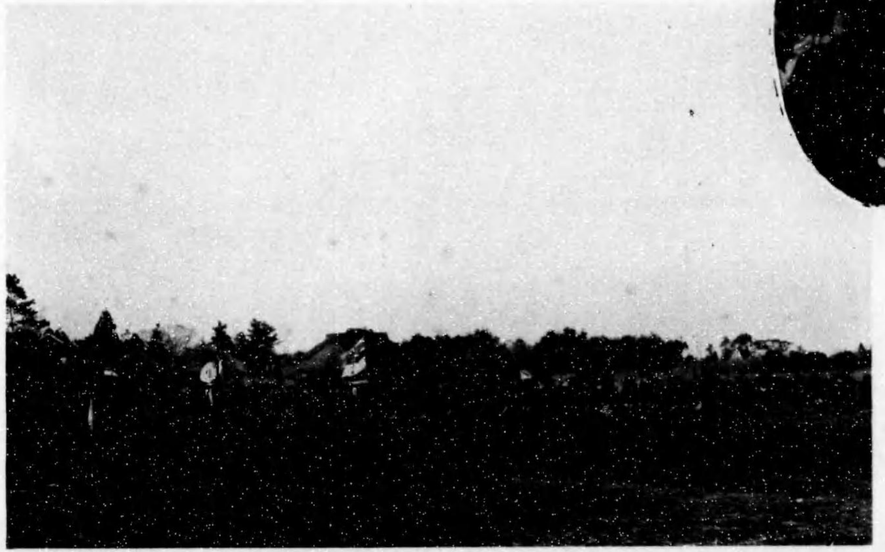
（故手塚眞經撮影）

第八小絹組喞筒操法の光景と野本組頭



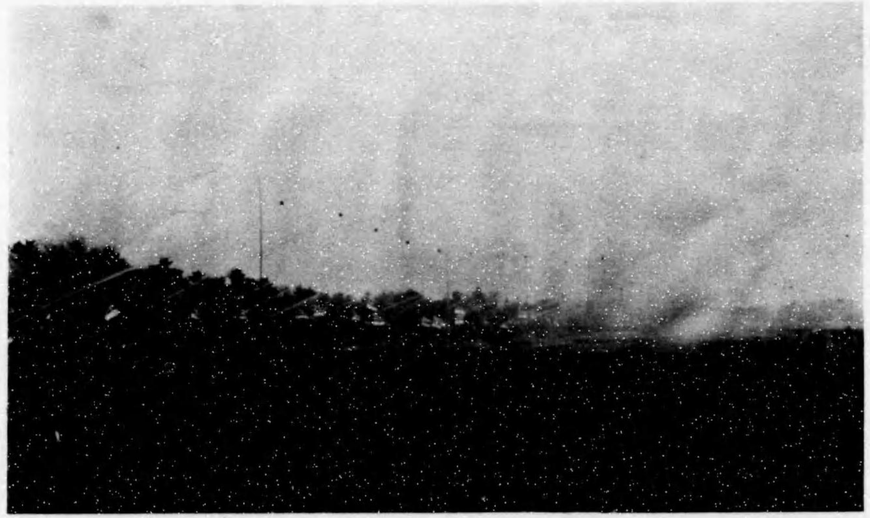
第九取手組分列式の光景と田中組頭

(東京寫眞組合)

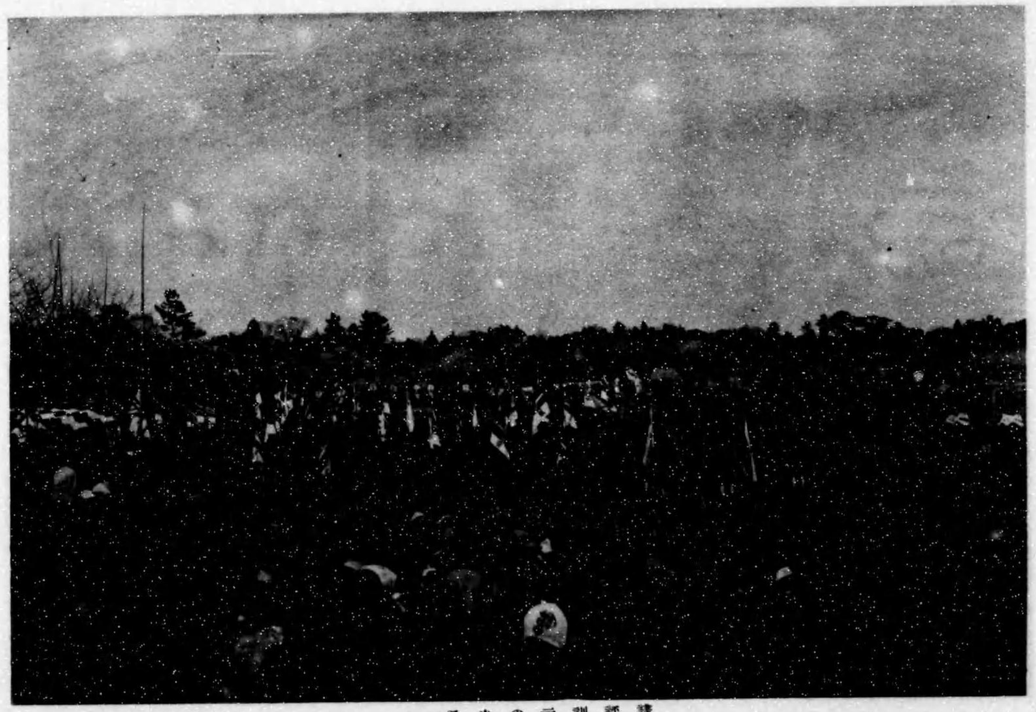


（坂手寫眞館撮影）

第十布川組分列式の光景と杉野組頭



放水試驗の光景　（放手寫真撮影）



講評訓示の光景

（所手寫眞館撮影）

點檢官以下役員全部の記念撮影　（助手寫眞部出張）

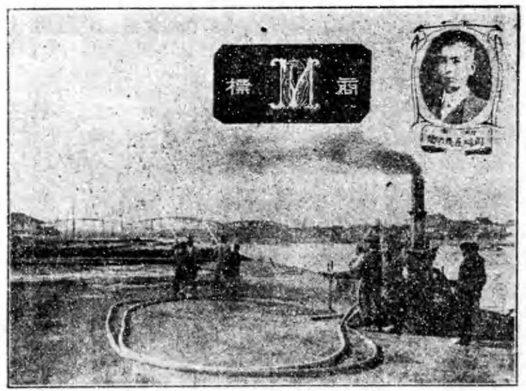
（所手輯見開四第）　　徐興柚子榮り の光景

參觀人群集の光景正午中の撮影　（宮手寫眞部撮影）

東京市本所區横綱町一丁目

岡崎屋喞筒製作所

電話本所八七四番
振替口座東京一九〇二六番
電信暗號（オカモ）



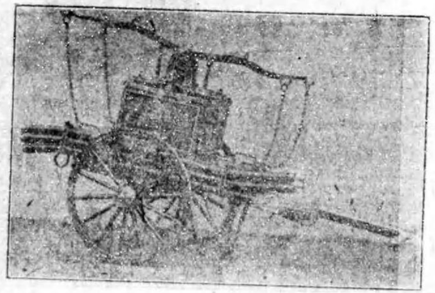
製作品販賣種目

○實用新案オイル自動消防筒喞
○消防用蒸汽喞筒　○井戸用喞筒
○消防用ハンド喞筒　○土工用喞筒
○灌漑用排水喞筒
○喞筒附屬品並ニ防火用器具
○水道消火栓用水管並ニ附屬品一式

新案特許第一六〇五〇號

橋爪式消防用補助柄附喞筒

橋爪合名喞筒諸機械製作所



東京市淺草區
向柳原町一丁目一番地

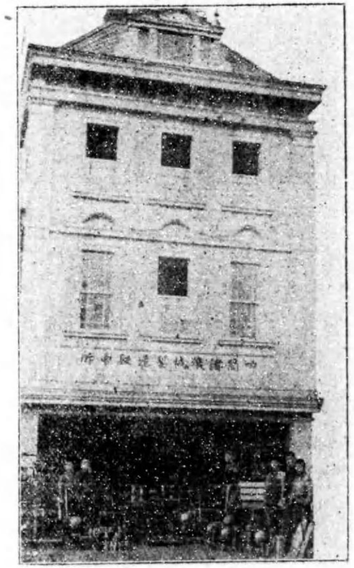
橋爪清太郎

電話下谷（六六五四番）
電信略號（八シ）

消防用各種喞筒製造販賣

製作品販賣種目

○消防用蒸汽喞筒　○消防用ハンド喞筒
○自家用筒喞　○工事用喞筒
○消防用器具一切　○井戸用喞筒
○喞筒附屬品一切　○各種喞筒機械
○水道用消火用栓水管及附屬品一切



（清水商店）

東京市神田區通新石町廿番地

諸官省御用　**清水彌七**

電話神田八三五番
電信略號シミツ

工場　全區平永町廿一番地

取手警察署管内公設消防組聯合大演習概況

△前代未曾有の一大壯觀を呈す

大正五年四月二日、取手警察署長警部深谷倉三郎氏統率の下に、關東三大堰の一なる名にしあふ山王村花の岡堰に於て、管内公設消防組、守谷四郎、稻戸井四部、大野五部、相馬四部、山王五部、大井澤四部、高井三部、小絹一部、取手五部、布川二部の總人員約二千有餘名を召集して茲に曠古未曾有の大演習を擧行せられたり、今その概況を記さんに。

△**龜井點檢官の大歡迎**　午前八時を期し、管内消防各組員一同は機械器具を整へて豫定の集合所岡堰に到着するや、此の時、龜井點檢官野木保安課長の一行を歡迎すべく、永作警部補總指揮の下に一同は旗及び馬簾を押し立て隊伍堂々として同所を繰り出で、之を寺原村眞砂坂より山王村岡に至るの間に於て二列横隊となり待ち受けたり、斯て仝九時三十五分轟然三發の煙火を打ち揚ぐるや、忽ちにして『氣を付け』の喇叭劉喨として鳴り亘れば、龜井點檢官、野木保安課長の一行は深谷取手警察署長の先導にて統監旗を翻へし肅々列前を通過し一同の出迎を受く、此の時各組頭は『氣を付け』の號令を下して擧手注目すれば、他の列員一同も亦注目禮意を表す、於是最終布川組は、頓て點檢官一行の通過するを見計ひて旗を振れば、第一守谷組、第二稻戸井組、第三大野組を始め以下各組順次之に準ふて演習所に引揚け豫定の位置に就けり、時に仝九時五十分なりき。

△**各組の點檢**　午前十時二十分點檢開始の煙火を合圖に深谷取手署長は龜井點檢官一行を式場に案内し、各組毎に點檢を爲せり、而して組頭若くは組頭代理の指揮者は各部に對し番號を唱へしめたる後、直ちに町村、消防組定員何名、出勤人員何名を報告して點檢を受く、此の時點檢官は第一列の右翼前面より左翼を通過し背後に回はりて第二列及び押位に及ぼし服裝姿勢を檢して定位に就く守谷、稻戸井、大野、相馬、山王、大井澤、高井、小絹、取手、布川の各組皆何れも逞したる優劣のなかりしは之れ全く平素の指導訓練與て大に力ありと謂ふべし。

△**喞筒操法**　點檢を終了したるは正午なり、それより各組晝食の爲

め暫時休憩、午後一時に至り豫定の喞筒操法を行はしむ、深谷署長は點檢官を案内して守谷第一組より檢閲を始め順次布川の第十組に及ぼせり而して之が號令者は組頭又はその代理者を以て執行せしめたるを以て、縱令一組に數箇の喞筒ありと雖も之が操縱を爲す上に於て何等の支障を見ざりしは各組共操法訓練の宜きを得たるが爲めならん乎、操縱者は之を各部の消防手より選拔當らしめたり。

△放水試驗　午後二時三十分、放水試驗用意の爲め數發の煙火を打ち揚くるや、守谷、稻戸井、大野、相馬、山王、大井澤、高井、小絹、取手、布川各組二千有餘の健兒は、豫て待ち受けたること丶て、勇氣百倍祝融も物かはと、部旗、組旗を押し樹てながら喞筒を据へ豫定の位置に陣を張り號令一下放水し得べき準備を爲しぬ、軈て「氣を付け」の喇叭を吹奏して各部に注意を促したる後、幹部は旗を左右に打ち振りつ丶「始め始め」の號令を發せば、三十七の喞筒は一齊に筒先を町村名宛の標的に向て放水し始めたり、此の間僅に五分の渉時間なるを以て、各組、各部、各員は、何れも一二のかけ聲勇しく標的墜落せざれば止まざるの概あり、觀る者をして思はず喊聲を發せしめ一大壯觀を呈したり。

△講評訓示　標的の墜落に熱中したる二千有餘の健兒は、早や五分時の奮闘を了へ喞筒を豫定の場所に引き揚げたり、於是乎各組員一同は點檢官の講評訓示を受くべく臨機整列を形成するや、「氣を付け」の號令の下に深谷署長は徐ろに起て左の告辭を朗讀す。

本日茲ニ部内消防組聯合演習ヲ擧行スルニ當リ來賓諸賢ノ參觀ヲ辱フシ警察部長殿ノ親閲ヲ仰クヲ得タルハ各組員諸子ト共ニ小官ノ光榮ニシテ此擧ニ後援ヲ與ヘラレタル關係町村有志ニ對シ衷心ヨリ感謝スル所ナリ水火災ノ恐ルヘクシテ其害ノ甚大ナルコトハ既ニ諸子ノ知悉スル處一度此ノ災厄ニ遭遇センカ幾多ノ財寶一朝ニシテ烏有ニ歸シ其慘害ハ獨リ個人ノ不幸ニ止マラス亦實ニ地方ノ盛衰ニ關ス故ニ之カ警防ノ機關ヲ施設シ其ノ組織ヲ完備スルハ瞬間モ閑却スヘカラサル要務ナリトス而シテ之ヲ警防シ以テ貴重ナル生命財産ヲ保護シ町村ノ繁榮發達ヲ助クルハ實ニ諸子ノ任務ニシテ其責任ヤ重且大ナリト謂ツヘシ顧フニ世運增々開明ニ趨キ諸事皆進歩ヲ促ス消防事業モ亦之レニ伴ヒ其ノ改善ト發展トヲ努メサルベカラス殊ニ煙焰ノ裡ニ猛火ト戰ヒ或ハ滔々タル濁流ヲ冒シ勇往邁進シテ機敏ナル行動ニ出テ本務ヲ全フセンニハ機械器具ノ改善ニ紀律訓練ニ待タサルヘカラス消防組聯合演習ヲ擧行シタル所以ノモノハ趣旨此ノ奬勵ニ外ナラス諸子悟ル所アリ鋭意努メタル跡又大ニ見ルヘキモノアルモ前途尙ホ遼遠ナリ諸子夫レ此ノ演習ニ鑑ミ單ニ一時ノ集合タルニ終フシメス宜シク自省シテ他ノ長ヲ取リ己ノ短ヲ補ヒ紀律ノ訓練ニ機械ノ改善ニ益々斯業ノ發達ヲ圖リ以テ其實ヲ擧ケ消防組タルノ本分ヲ完セラレムコトヲ望ム

次に龜井點檢官の左の講評訓示ありたり、諸君今日の演習は概括的に之を講評すれば先づ成績優良なりと認む、併しながら之を分解講評すると、多少の欠點は免かれぬと思ふ、何となれば、先つ服裝の點に於て帽子の筋が金筋なるべきに、白糸、赤糸、黄糸などを付けて居るものも見受けられた、又規律の點に於ても、放水試驗の時に止めの號令ありたるに拘はらず繼續したる者もあつた、併し是は全体を評するのではない間々さう謂ふ点を見受けたと申すのである、又點檢の際嚮導の位地を正さずして列員を之に準はしめたる指揮者あり、是れ等は將來其大に矯正を要すべき点であると思ふ、それから器具機械に至りては時世の進運に伴ひ、大に改善すべきに拘らず、舊來の喞筒を使用して居るのも數箇あるを認めたが之れは是非改良を囑望する云々

諸君本縣下市町村數三百八十一中に於て公設消防二百三十七の設置あり而して金馬簾使用認可の消防組は百十を以て算するの好況を示しつ丶あり、蓋し一進歩と謂ふべきである、隨て近來各地に於て聯合演習が行はれ居るも、何れも四組乃至五六組位の小規模の合同的演習であつて、今日の如く十組聯合大演習を擧行したのは實に本縣下に於ては之れが嚆矢である、しかも各組員諸氏の規律嚴肅、動作機敏にして隊伍の整然たるは、他にその比を見ざるところである、此の点は本官の深く滿足に堪へざる次第であります、希くは將來共益々斯道の爲めに盡さる丶は勿論、各町村の一住民としても共同一致能く此の規律節制を應用して、町村自治の爲めに活動せば國家の裨益はそれ幾許ぞや、一言以て訓示となす。

次に三浦北相馬郡長、帝國在郷軍人分會北相馬郡聯合會長堀越順三郎氏郡内町村長總代山王村長谷口倉二氏郡内小學校長總代山王校長赤松資次郎氏等の祝辭、演說ありたる後、參加消防組總代山王村消防組頭齋藤傳吉氏の左記答辭ありたり、午後四時三十分閉式せり。

本日茲ニ取手警察署管内公設消防組聯合演習ヲ擧行セラルヽニ當リ親

シク警察部長殿並ニ貴賓各位ノ賞臨ヲ辱フシ加フルニ懇篤ナル訓諭ヲ賜ハル參加消防組ノ光榮何ソ加之各組員益々奮勵努力以テ消防組ノ本分ヲ盡シ本日ノ光榮ヲ空フセサランコトヲ期ス

△**分所式** 講評訓示に終るや深谷署長各組に對し點檢官龜井警察部長敬意を表する爲め分列式を行ふべきを命令するや、隊伍整齊分列の隊形に移り直ちに守谷、稲戸井、大野、相馬、山王、大井澤、高井、小絹、取手、布川各組の消防員二千餘名は、最と莊嚴なる分列式を行へたり、時に午後五時を過ぐる約二十分なりき。

△**餘興** 分所式は茲に全く終了したるを以て、各組選拔の健兒は競技を爲し、其の他山王村消防手の梯子乘り、馬鹿囃子等の面白き餘興ありて頗る壯觀を極めたり。

因に當日の參觀者は此の曠古未曾有の壯觀を見脫がさじと、早朝より塲の四圍に雲集し立錐の餘地なかりしは亦以て其壯觀なりしを想ふべし。

守谷町消防組沿革概要

同町には火祭と稱する者あり、こは初午か其年の五日若くは十日に當る時は、必す出火多しと稱し、之か火難を避けむか爲め、一定の箇處に假小屋を造り以て村役塲の小使をして放火犯人たらしめたり、此時用意の火防夫等は警鐘を乱打して鎭火するを例とせり、斯くして犯人は其罪の免るゝ能はさるを豫知し、菩提寺に往きて生請ひの詫を賴めは、寺僧衆人の前に出ゝ代謝するを一の舊慣として行ひ來りしか、明治初年に至て之れを廢止したり。

爾來各部落毎に多少火防的設備ありと雖、未た以て完全なる者にあらさりき、明治二十七年八月十三日縣令第三十四號を以て、初めて公設の消防を組織するに至れり。

明治四十二年十二月廿六日縣令第九十四號に依り、更らに組織を變更して之を第一部、第二部、第三部、第四部に區分せり。

大正二年四月四日縣令第百八十三號を以て、守谷町消防組と改稱し併せて部員を增加せり。

大正二年四月三十日各部共紀律嚴肅、訓練熟達せるを以て、岩田署長の時、縣に申請して金馬簾の使用認許を受けたり。

初期當時の組頭は大和田彌之助氏なりしか、明治三十年退職せしを以て田中清吉氏就任后辞す、三十五年より現組頭齋藤芳太郎氏任命以て今日に至れり、金馬簾授與式擧行の日多年消防に盡力せしを以て感狀を受けたる者は左記の如し。

組頭 齋藤芳太郎、第一部長 平尾榮助、消防手 吉田鎌太郎、第二部長 藤井富平、小頭 根本廣次、第三部小頭 渡來助太郎、中山金次郎、消防手 鈴木定次郎、田中春吉、第四部長 下田平助、

愛宕神社囘祿の際、拔群の働きを以て賞金を受けたる者、

第一部消防手 岡田長藏、第四部小頭 入江熊次郎、消防手 中村末次 藤井宇吉

四月二日岡堰に於ける聯合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲す成績頗る優良なり。

組頭	齋藤芳太郎		
第一部長	平尾榮助	仝	下村喜十郎
小頭	相良太十		
消防手	高羽寅吉	仝	高羽榮吉
	倉持常藏		吉田鎌太郎
	岡田辰造		關秀松
	寺田清二		木村袈裟吉
	吉田金藏		下村藤吉
	菊地茂八		下村勘次
	染井濱次郎		下村幸次郎
	古谷信次郎		秋田富三郎
	伊藤梅次		下山馬五郎
	岡田景勝		中島太平
	小林五平		飯塚清吉
	吉田助次		西村源藏
第二部長	小頭 根本廣次	仝	飯塚長吉
消防手	中村爲吉		宮本林藏
	渡邊林藏		椎名熊治
	渡邊四平		中村喜三郎
	長谷川滝吉		中村森之助
	中村森之助		藤井健藏
	藤井富平		根本德太郎
			菅谷文藏
			鈴木森三郎
			石塚宗四郎
			森坂藤五郎
			櫻井才太郎
			倉持由藏
			坂入智
			中山四郎
			岩田民之助
			高羽新次郎
			飯塚角次郎
			吉田豊次

長塚林次　飯島定次　淺井萬吉　成島太七
石塚慶喜　飯塚勝次　長塚石之助　塚原勝
廣瀬丑松　中村政吉　中村猪太郎　下村豐吉
相良勘次　中村暉吉　渡來佐太郎　上野荒吉
岡田丑松　根本德次　風味國太郎　宮本弁次
廣瀬芳廣　長谷川萬吉　安田梅吉　下村角次
櫻井泰治　中村小四郎　小林豐松　淺井留作
菊地兼吉　吉田勇次郎　廣瀬一太郎　高橋熊太郎
橋本春吉　小林佐太郎　中村丈助　中島修藏
相良彦太郎　菅谷秀吉　長塚梅吉

第三部長　野口貞三郎
仝　下村藤吉
小頭　田中竹次郎
仝　渡來助太郎

消防手

吉田松之助　鈴木鯛助　鈴木熊次郎
平井作之助　栗原酉之助　中山文次　渡邊仲四郎
野口市太郎　渡來市次郎　渡來龜吉　渡來近之助
下村高吉　長田角次郎　中島水太郎　飯塚丑松
堀越竹次郎　相良清重　沼田勇吉　相良豊次
仁田茂三郎　増記源松　森山芳兵衛　平井佐助
小林清吉　杉田金兵衛　相良德太郎　野口時四郎
堀越喜太郎　中谷安之助　下村孝　佐久間善吉
渡井龜次郎　中山常藏　菅谷清藏　中山儀平
宮本勝太郎　藤井喜太郎　飯塚長三郎　飯塚辰藏
渡來末治　大和田德三　齋藤喜一　瀬崎恭次郎
仁田金次　下村粂太郎　沼尻富次　染谷竹次
秋田龜次郎　飯島作治　中山啓三　寺田市三郎
染谷啓助　吉田熊吉　菅谷菅吉　田中留吉
小林米吉　石山雅

第四部長　石田庄七
小頭　入江熊次郎
仝　貝塚友吉
栗原久次郎

消防手

入江金次　藤井平吉　石田秀次
栗原久藏　成島利兵衛　栗原信吉　鈴木又一
渡邊宗五郎　瀧本善次　渡邊藤五郎　金子與市
霜田熊藏　栗原政吉　霜田文吉　霜田定三郎
霜田萬吉　栗原平治　文道角次　中村作次
中村勘次　瀧本董造　瀧本小一郎　瀧本保四郎
貝塚酉之助　貝塚喜次郎　月岡滿太郎　大塚森平
横張岩松　横張榮助　霜田嘉平　栗原末吉
菊地勝吉　渡邊重太郎　渡邊桂次　月岡一太郎
瀧本瀧太郎　渡邊仁吉　黑田角次郎　渡邊啓次
堀越多重　渡邊仁助　入江裁次郎　貝塚彦次郎
霜田權次　貝塚斧造　吉田爲次　渡邊峯吉
渡邊久助　渡邊幸之助　渡邊文治郎　藤井彦市
瀧本清吉　中村兼太郎　山本竹次　長妻政次
渡邊義太　栗原岡七　藤井久太郎　瀧本鉄之助

消防醫師　下村彌太郎　仝　渡邊忠助

第二稻戸井村消防組沿革概要

稻戸井村消防組は大正三年三月二十六日縣令告示第百五十九號を以て、初めて新設公認せられたり。

當時村經濟は、一般に農蚕業不振の結果、出資の多額に上るを思ひ、一時村民機械器具の購入を見合せたり、然共此事をして何時迄も放棄せしめむ乎、一朝出火の際は又再ひ償ふ能はさる損失を受くるを以て、大正五年一月二十日村内有志の寄附金を募集して、爰に始めて機械を購入し以て完全なる組織を見るに至れり。

大正五年三月二十日縣告示第百五號を以て左の如く組織を變更せり。

第一部戸頭、第二部米ノ井、第三部野々井、第四部稻。

四月二日岡振に於ける聯合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲せり、當日長塚組頭頭氣の故を以て、指揮する能はず、中村敏氏代つて總指揮者たり、成績他に比して優良なり。

組頭　長塚文太郎
第一部長　飯田治助

小頭　貝塚常吉
仝　長塚綱吉
仝　高橋熊吉
消防手
貝塚譲一郎　宮崎忠治郎
宮崎伊三郎　宮崎勇次
大森廣吉　荒木清作
貝塚儀左衛門　荒木輔司
染谷兼吉　宮崎幸次郎
長塚初太郎　荒木高吉
長塚仁郎　長塚倉吉
海老原治助　中村由太郎
染谷兼松　根本吉松
油下高吉　染谷仲次郎
海老原留吉　飯田貞吉
根本友吉　中村彌助
齋藤高吉　海老原庄吉
坂本專之助　菅谷金太郎
高梨周平　關根順一郎
田島保造　關根惣作
關根清太郎　古谷由平
油下竹次郎
中村國太郎

第二部長　海老原喜輔
小頭　大浦宗志郎
仝　麻生庄一郎
消防手
大浦米造　石引伴輔
海老原惠三郎　海老原清一郎
山ノ井佐一郎　中村兼吉
海老原健藏　大浦竹次郎
大浦千代松　大浦哥之助

仝　貝塚重太郎
仝　貝塚豊次
宮崎茂八　貝塚新太郎
宮崎千代吉　和田藤四郎
染谷平藏　中村惣次郎
大森春吉　長塚儀助
貝塚宗次郎　中村角太郎
長塚喜三郎　染谷紋藏
長塚彌助　染谷虎次郎
中村定吉　飯島慶助
染谷七藏　海老原文吉
染谷鱗吉　宮崎龍太郎
海老原松太郎　關根辰三郎
中村鹿藏　古谷倉吉
宮崎武市　古谷茂助
關根武市　關根始太郎
飯田清作　張貝作次
關根市太郎
海老原菊次郎
坂本憲吉
油下行三

仝　中村茂助
蛯原佐内
麻生久次郎　飯島由造
蛯原兼松　蛯原忠治郎
海老原勝藏　山ノ井清一郎
大浦鐵之助　大浦源次
大浦隆三　大浦直藏
大浦榮次郎　中村倉之助

海老原象次郎　海老原修造
石引貞助　石引寅之助
海老原法作　中村森藏
海老原桂助　大浦林藏

第三部長　蛯原重郎次
小頭　海方勘次
仝
消防手
長塚謙三郎　染谷平次郎
長塚德太郎　海方清次
長塚要吉
長塚清次郎　長塚清平
長塚海藏　長塚儀一郎
下田榮藏　長塚高之助
下田文吉　下田龍尾
大久保廣吉　下田初太郎
大久保貞吉　下田藤次郎
下田多太郎　下田久藏
染谷勝藏　海老原啓次郎
石塚牛之助　海老原榮次郎
海老原竹次郎　海老原作次郎
海老原松助　海老原喜己之助
長塚三郎　長塚勇太郎
下田桂助　石塚要吉
海方金次郎　海方幸助
長塚彌市　山崎彌市

第四部長
小頭　山崎五十吉
仝　海老原千藏
消防手
海老原兼吉　海老原幸次郎
海老原四平　海老原省吾

海老原廣次　海老原仙藏
海老原三平　海老原春吉
大浦忠吉　花島佐重

海老原宗四郎
仝　下田惣助
仝　長塚榮
海方信次郎　海方榮吉
染谷米藏　增田德次郎
長塚惣次郎　長塚虎吉
長塚濱吉　長塚仁平
長塚謙次郎　長塚藤吉
金田金次郎　下田辰五郎
下田清次　下田兵次郎
下田幸之助　下田藤吉
下田駒太郎　染谷孫次郎
下田玉之助　下田伊平
下田清治　石塚德治
海老原泰助　海老原富藏
海老原恒次郎　石塚榮吉
長塚德太郎　下田作太郎
海方誠一　長塚定吉
金田福松　長塚浦次
長塚泰助　染谷助四郎
下田征

海老原伊兵衛
仝　海老原松五郎
海老原健次郎　海老原宇市
海老原萬助　海老原武次郎
海老老岩吉　海老原由太郎

海老原武夫　海老原熊太郎　海老原榮吉　山崎留吉
山崎彌五右衛門　海老原源一郎　山崎熊次　山崎邦太郎
海老原市太郎　山崎正一　山崎竹次郎　山崎與助
山崎熊太郎　山崎平角　山崎周平　海老原作太郎
海老原文次郎　海老原初太郎　海老原喜三郎　堀越虎次郎
海老原淺次郎　根本長作　山崎虎重　堀越作次郎
海老原泰次郎　海老原與四郎　根本市太郎　堀越浦吉
海老原泰助　海老原半次

第三大野村消防組沿革概要

大野村消防の沿革に就ては、爰に其詳細を知る能はざるを以て遺憾乍ら大要を記す。

明治二十七年八月十三日縣令告示第三十四號を以て初めて公設消防組を組織するに至れり。

翌二十八年七月十三日縣令第四十一號を以て、更に組織を變更して、之を第一部、第二部、第三部、第四部、第五部に區分し、同時に水防事務を兼掌せしめたり。

初期組頭鈴木弘之助氏退職後は染谷宗義氏、次て中島由藏氏何れも、任命せられたり、大正四年四月現組頭松丸益之助氏に任命あるや、氏は一意專心消防の改善發展に鋭意盡力する結果、近來にては成績の見るへき者頗る多し。

本年二月十八日初出式を同村に擧行せらるゝや、岡田村長、松丸組頭の名を以て、左記諸氏に感狀並に木杯を授與したり。

私設より公設に至る迄の功勞者

第二部長　高橋甚藏、小頭　横瀨喜助

二十ヶ年勤續功勞者

第一部　消防手　横瀨市助、高橋　顯、染谷丑松、小菅忠吉

第二部　小頭　鈴木彌右衛門、鈴木留藏、消防手　吉田增藏、椎名仙藏

第三部　小頭　中島忠作、消防手　淺川丑藏、飯田眞次郎

第四部　小頭　椎名林吉、貝塚勝藏、消防手　椎名平作、中村作次

第五部　小頭　伯耆田賢之助、古谷喜一、消防手　高島熊治、寺田仲次郎

四月二日　岡堰の騎合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲す、成績他に劣らず。

組頭　松丸益之輔
第一部長　椎名喜一郎
小頭　寺田平作　同　鈴木豐藏
同　横瀨覺次　同　椎名直三
同　椎名與三郎
消防手　小菅德松　椎名門三　松丸勘四郎
淺川孫八　松丸金十郎　椎名作次　岡田安五郎
高橋　威　染谷和吉　染谷正平　根本定治
高橋彦治　横瀨仲藏　横瀨芳之助　椎名豐松
淺川庄作　染谷林次　戸邊信太郎　寺田悟
寺田常作　岡田寅之助　染谷丑松　鈴木美之助
染谷與市　横瀨源次　椎名仲太郎　鈴木倉藏
染谷藤藏　木所忠助　丸山春次　飯沼平次郎
寺田寅吉　鈴木周作　岡田幸之助　高橋　在
岡田兵作　飯田與四郎　横瀨清之助　横瀨清七
鈴木岩作　小林長次　根木平次郎　松丸久藏
高倉藤太郎　吉田元吉　椎名　愛　横瀨宗策
横瀨嘉平壽　高橋　昇　高橋輔太郎　吉田英治
寺田水之助　吉田政七　横瀨龜作
第二部長　鈴木啓作
小頭　鈴木彌右衛門　同　鈴木留藏
同　鈴木高之助　同　椎名力藏
同　椎名德三郎　同　吉田未之助
消防手　椎名仙吉　椎名勇輔　鈴木兼吉
鈴木信次郎　荒井慶治　齊藤留吉　田上春治
倉持福松　鈴木初三郎　寺田寅次郎　鈴木貞藏
椎名仙藏　貝塚竹次　椎名浦吉　鈴木角治
椎名春次郎　椎名忠次郎　飯泉大助　鈴木國藏
淺川丈吉　寺田武八　飯塚松藏　鈴木三造
吉田運治　吉田乙次郎　松丸吾市　椎名豐次

飯泉勝太郎　鈴木豊太郎　吉田兼次　貝塚貞之助
鈴木彌助　野口正策　吉田弁治　野口重藏
推名政之助　染谷信　鈴木清助　推名善治
鈴木角太郎　淺川虎雄　鈴木仙彌　推名喜藏
推名三郎　飯塚仙松

第三部長　貝塚淺右衛門

小頭　貝塚勝三郎
同　中島忠作
同　松丸彌市　貝塚彌之助
同　吉田慶次郎

消防手

中島島吉　中村竹次郎　淺川丑藏　後藤初太郎
坂巻仲造　中島正吾　志賀林太郎　淺川清七
貝塚伊助　大羽銀次郎　染谷菊松　寺田千之助
推名紋之助　宇佐見春吉　野口林次　推名常平
青木太吉　宇佐見勘次　推名平吉　塚原平藏
鈴木千勝三　小菅文吉　淺川豊八　吉田由藏
宮崎德太郎　中島次郎　村瀬廉治　松丸勝藏
吉田卯三郎　後藤權之助　中村長一郎　飯田兵藏
寺田一郎　推名幸次郎　平川傳司　鈴木兵治
岩手安之助　推名義雄　中山銀藏　高橋猪太郎
貝塚朝吉　推名長作　寺田嘉藏　皆川順平
長松光之助

第四部長　吉田七郎

小頭　山崎鉄太郎　同　松丸林次
同　貝塚勝藏　同　松丸佐司郎
同　推名豊次郎

消防手

鈴木福太郎　吉田和四郎　推名長作　松丸竹松
染谷榮治　松丸時次郎　推名常吉　松丸福太郎
中島兼吉　山崎周作　松丸惠之助　松丸泰策
推名林治　田上良助　染谷長松　宇佐見兵馬
推名泰一　推名長治　山崎仲太郎　田上寅之助
推名清作　寺田清作　染谷友治郎　久保田久次郎
中村作治　寺田浦吉　山崎豊松　推名熊吉
推名太郎　松丸和吉　推名定治　松丸久一郎
鈴木平吉　田上幸之助　宇佐見信次郎

第五部長　石山勝藏

小頭　野澤作平　同　石塚常重
同　石塚壽三郎　同　高島清治
同　柳生精次郎　同　古谷喜市
同　伯耆田賢之助

消防手

野澤清作　伯耆田藤吉　石塚廣吉　石塚林次　古谷市太郎
野口嘉助　柳生吉太　野澤作藏　伯耆田兵助
山田金藏　皆川吉男　石山島吉　寺田長作
石塚茂吉　高島熊治　古谷定治　古谷宗助
高島留藏　古谷惣作　石塚滿治　高島由之助
長谷川鮑太郎　寺田謹太郎　古谷福太郎　寺田島治
小林米藏　古谷富治　寺田倉治　伯耆田初太郎
皆川豊作　皆川長作　長谷川小三郎　伯耆田幸吉
細井安治　菊地爲助　伯耆田藤吉　皆川重四郎
廣瀬宗助　伯耆田太一郎　寺田峯治　中山清治
豊島寅吉　豊島丑松　廣瀬市藏　長谷川新藏
石塚仙吉　伯耆田喜太郎　高島忠治　伯耆田富治
伯耆田孝輔　寺田仲次郎　消老耆清藏　駒塲勝次
駒塲陣吉　野澤藤作　高島慶次郎　石塚林之助
青菅喜太郎　石塚佐重　古谷兼吉　石塚義
石山吉次　石塚直次郎　伯耆田角太郎　長谷川顯
伯耆田長作　飯田新次郎　古谷藤吉　石塚喬
消防醫師　染谷鉄雄　高木三晰　田上幸之助

△第四相馬町消防組沿革概要

相馬町の消防に就ては、其の詳細を聞くを得ざるも、公設せざる以前より各部落毎に火防的設備ありしは事實なり、然共今日の如き完全なる組織にあらざりしことは識者の既に知る處なり。明治二十七年勅令を以て

消防規則を發布せらるゝや、爰に初めて全部の組織を變更して、公設するに至れり。大正三年三月二十五日縣令告示第百四十三號を以て、捫木を第一部に、藤代を第二部に片町を第三部に宮和田を第四部に區分變更して、毎年初出式を行ふ。大正三年二月二十四日各部共、紀律嚴肅、訓練熟達するの功を以て、岩田署長の時、縣より各部毎に金馬簾使用を認許せられたり。初め組頭に日下定五郎氏を推せしか、辞職したるを以て日下對造氏任命せらる、次て横瀬主作、横瀬秀兩氏の更迭ありたり、現組頭日下榮太郎氏は、明治四十二年二月三日任命以て今日に至れり。四月二日岡堰の聯合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲す、成績亦他に劣らす、當日日下組頭に代つて指揮を執りしは平本第三部長なり。

組頭　日下榮太郎　第一部長　色川富五郎
小頭　河島林次郎　同　鈴木市郎　同　小板橋金次郎
同　色川兼吉　同　松本清次郎　同　蛯原誠次郎
同　寺田尙助　同　川島由藏

消防手　濟賀源三　寺田松太郎　色川清助
倉持覺之助　龜井宇左衛門　蛯原文次郎　秋田榮吉
齊賀長作　松本忠次郎　吉岡兼三郎　蛯原對藏
安田安之助　舘野庄吉　猪野瀨龜次郎　小島田道
鈴木初太郎　鈴木寅之助　草間寅吉　湧井民吉
色川勝太郎　飯田直吉　鈴木幸助　古谷清三郎
齊賀清太郎　鈴木元吉　秋田忠三郎　川島覺次郎
蛯原菊之助　松本松太郎　小板橋富次郎　鈴木龜之助
鈴木熊太郎　鈴木直吉　内田彌一郎　飯田伊三郎
松本熊男　齊賀賢　飯田清次　神松直吉
秋田仙太郎　色川勝壽　龜井音次郎　倉持長次郎
齊賀謙吉　色川長吉　矢口喜代治　秋田伸之助
秋田久太郎　色川留藏　倉持定之助　鈴木寅吉
鈴木仙藏　齊賀辰之助　染谷千代作　秋田鉄吉
河島壽三郎　矢口匡雄　河島秋三郎

第二部長　木村常吉
小頭　永田儀十郎　同　江戸崎庄吉　同　河原崎熊吉
同　櫻井嘉平　同　大橋清次郎　同　染谷貞次

同　寺田新平

消防手　諸越幸藏　諸越藤太郎　石塚勝太郎
岩崎勘次郎　飯田良平　飯泉辰之助　飯田豐吉
福永文吉　杉澤政之助　飯泉龜吉　寺田平吉
飯田啓次郎　秋田定吉　江ヶ崎清太郎　小川市平
寺田保太郎　橋本隆一　猪野瀨爲吉　猪野瀨金藏
猪野瀨山藏　猪野瀨利平　大橋庄吉　石塚茂十
佐藤勇助　米川小三郎　米川嘉藏　和田辰五郎
大槻島吉　吉田龜吉　櫻井忠吉　富田彌吉
塚越敬太郎　榮重雄　杉澤市太郎　蛯原生太郎
小川浪次郎　小川安造　江ヶ崎清太郎　森田鉄五郎
宮本德太郎　山崎廣吉　秋田治助　荒井善太郎
人見善之助　坂本泰雄　寺田官次　蛯原甫
伊藤傳　杉澤梅吉　小川文治　下田信之助
篠塚清次郎　渡邊菊太郎　海老原平吉　中村梅吉
羽田勝三郎　久保田嘉平　鈴木吉太郎　鈴木由松
篠崎庄之助　後藤己之助　飯塚兵郎　竹内久五郎
市村芳藏　杉田藤吉　盛岡廣一郎　染谷要助
塚越貴一郎　熊ヶ谷金藏　酒井幸次郎

第三部長　平本直次郎　小頭　菅谷常松
消防手　富田音吉　鈴木善吉　菅谷喜三郎
增田清次郎　菅谷文次　菅谷直吉　宇都野岩太郎
永田清吉　蛯原政次　宇都野芳藏　杉田福太郎
矢島周作　永田政藏　井上勇次　平和田歌之助
伊藤豐吉　石川治平　櫻井貢　平本清左衛門
古谷愛助　櫻井寅治　本橋德太郎　永野竹次郎
蛯原勝次郎　菅谷由太郎　宮本直吉　林之助
赤鍋茂助　羽田幸次郎　增田昌一　淺沼廣吉
大久保義生　宮本森三郎　菅谷誠一郎　永田文次郎

富田龍太郎

第四部長　宮島粂太郎
小頭　石田十五郎　同　塚本常吉　同　大野子之吉

同　中根春治　同　菅谷謙　同　菅谷健吉
同　根本由平　仝　太田近五郎　同　菅谷友二
同　太田惟英

消防手　推名　春吉

青木茂助　野崎元吉　片岡綱一郎　野崎喜太郎　石田健次　宮和田次郎　齊賀忠次郎　鈴木平吉　早川久太郎　相澤富吉　鈴木富太郎　岡崎定吉　倉持通　若泉久兵衛　篠山泰次　川端常吉　塚本豊美　飯田豊次郎　小林啓次郎　秋田彌助　成田福次郎　小林德次　成島己之助　根本嘉助　草間倉吉　倉持貞助　廣瀬國之助　大澤武男　推名茂平　杉山幸助　菊地由三郎　小島宇之助　風見健藏　鈴木源助　稲葉金之助　成島榮四郎　大野菊次郎　相澤市太郎　服部治助　石田長次郎　大澤寅吉　糸賀長吉　風見儀助　山崎常吉　推名因吉　松田治平　篠山忠吉　大久保紋造　木村勇助　稲葉大吉　木村貞吉　菅谷啓助　菅谷德治　菅谷春吉　山崎勘次　菅谷啓助　本谷清十郎　木村菊次郎　宮島己之助　師岡辛次郎　木村義太郎　中根啓太郎　飯岡波次郎　篠山善太郎　秋田留吉　山崎久次郎　久米八百造　川村留次郎　久米藤太郎

△第五山王村消防組沿革概要

山王村消防は、明治十三年頃より起りしもの、如し、當時は第一番組、第二番組、第三番組、第四番組、第五番組と唱へ、各部共極めて舊式なる雲龍水樣の者を使用し來りしが、其後時勢の進運に伴ひ爰に初めて機械器具の全部に一大改良を加へたり。公設消防組の組織を見るに至りしは、明治二十七年九月二十六日にして、爾來各部共鋭意熱心、放水の試驗に喞筒の操縦に練習怠らざるより、紀律嚴肅、訓練又熟達して他消防組の模範なるを以て、大正四年四月十六日深谷署長之を縣に申請して、金馬籠使用の認許を與ふるに至れり。創設初期の組頭は推名平七氏なりしが、辞職后は鈴木勇吉氏任命、次て鈴木林藏氏に更迭せり、現組頭齊藤傳吉氏は大正元年の任命にして非常の熱心家なり。四月二日岡堰に於ける聯合大演習には居村の故を以て、率先參加し、頗る幹旋盡力する處あり、成績亦他に比して優良なり。

組頭　齊藤傳吉

第一部長　問根山紋太郎

小頭　吉岡文吉　同　推名吉三郎
同　鈴木要助

消防手

高森作造　坂田吉之助　入江勝太郎　海老原忠助
仲松五郎　永野留藏　問根山元太郎　永野兼吉
吉岡謙吉　推名吉之助　問根山定七　前野文次郎
小林要助　鈴木太重　海老原藤三郎　推名近之助
篠塚熊造　問根山善助　前野德市　海老原角次
宮本伊平　鈴木要助　篠塚房吉　山田丑之助
櫻井忠助　問根山幾造　松本德次郎　推名啓助
推名梅吉　飯島卯之助　鈴木三郎　永島竹次郎
前野条吉　高橋安之助　問根山久一　鈴木守悦
第二部長　永野紋次郎　松崎福治　推名牢藏
小頭　谷口喜助　問根山長次郎
同　推名庄吉
同　下村慶五郎

消防手

吉岡彦次郎　推名房五郎　推名愛次郎　染野傳吉
高中寅治　推名岩吉　推名圓次　推名富藏
問根山吉三　齊藤作右衛門　朝日出兼三郎　高野文太郎
永野廣吉　推名大助　青柳伊勢松　推名角四郎
鈴木健作　推名松助　赤羽彦次郎　問根山繁次郎
問根山波藏　大野眞砂造　推名善助　問根山平助
推名源一郎　片岡庄助　海老原鉄藏　海方光五郎
吉岡菊次郎　蛯原林次　前野正助　染谷豐吉
長塚喜代次　推名直吉　問根山德太郎　推名健藏
鈴木仁助　推名文吉　谷口幾次郎　谷口喜助
飯田廣吉　松村常吉　中村紋次郎

鈴木 梅吉　中山 眞太郎　椎名 臺次郎　齊藤 勝三郎
椎名 由太郎
第三部長　椎名 峯吉
小頭　中村 直次
同　吉岡清三郎　中村清吉
消防手　間根山忠次郎　中村 豐吉
安部八百次郎　中村岩吉　吉岡 榮助
石橋 太郎吉　師岡 半助　鈴木 松助　鈴木 寅吉
下村九右衛門　下村 勝太郎　永野 善吉　根本 好藏
椎名 三次郎　間根山伊助　根本 瀧藏　椎名 保次郎
根本 市太郎　根本 仁平　齊藤 仁平　根本 忠市
三上 繁次郎　渡邊 竹次郎　下村 榮之助　鈴木 萬吉
第四部長　中村 彌助
小頭　稻葉 千次　同　稻葉 國助　入江 健藏
消防手　高中 仁助　同　高中 市造
永野 源次　稻葉 新次郎　永野 與平
永野 要助　入江 周八　稻葉 長助
鈴木 安次　永野 源次　高中 德次　鈴木 熊次郎
高中 文藏　高中 清七　高中 勝太郎　高中 藤吉
高中 幸藏　鈴木 瀧之助　永野 德太郎
永野 清八　永野 德次　入江 藤吉　鈴木 八百平
永野 元吉　永野 市助　稻葉 榮次郎　高中 明次郎
高中 平作　中川 謙次郎　稻葉 國助
第五部長　吉田 菊四郎
小頭　岡田 理三郎　同　倉持彌五郎　同　山口由之助
消防手　吉田 熊藏　市村 喜七
富山 定吉　富山 幸助　富山 林平
岡田 藤三郎　塚本 銀藏　野口 富次　野口 聞藏　山口 作次
岡田 多藏　岡田 儀七　倉持 豐三郎
吉田 伊三郎　高野 平作　蛭田 慶次郎　吉田 濱治
窪田半左衛門　山口 儀造　高野 字太吉　高野 安藏
島田 常吉　吉田 折次　塚本 留吉　倉持 佐助
中川 丑之助　倉持 甚藏　島田 甚吉　加藤 謙一郎
吉田 榮吉　富山 喜代二

野口 勘次　塚本 政之助　倉持 治三郎　倉持 龜之助
市村 惣次郎　寺田 幸太郎　岡田 德太郎　倉持 平助
岡田 仲次　蛭田 榮　窪田 平治　島田 松藏
島田 由藏　吉田 愼三　岡田 規矩松　高野 惣吉
高野 友吉　山口 熊吉　倉掛 彌兵衛　杉田 幸次郎
吉田 芳男　吉田 益次郎　吉田 喜作　富山 喜一郎
市村 貴久　倉持 保

△第六大井澤消防組沿革概要

同村に於ける消防組は、明治三十四年一月、時の村長寺田豐作、駐在巡査鈴木力太郎兩氏等の幹旋盡力する結果、同年同月二十六日縣令告示第四號を以て初めて公設組織するに至れり。同四十一年十一月三十日更に人員を增加し、縣令第八十四號を以て、組織を變更して第一部、第二部、第三部、第四部に區分し併せて水防事務を兼掌せしめたり、毎年初出式を行ふ。當時の組頭須賀祐司氏辭職せしを以て、三十六年十二月六日須賀吉兵衛氏任命あり、大正四年四月二十三日須賀氏の後任として新たに寺田現組頭任命就職せり。四月二日岡堰に於ける聯合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲す、成績亦他に劣らす、目下役員には組頭の外部長四名、小頭二十四名、消防手二百六十九名あり。

組頭　寺田 豐作　第一部長　海老原 郁太郎
小頭　海老原 庸太郎　同　森山 隆之助　同　森山 茂助
同　高橋 菊之助　同　高橋 小佐次　同　海老原 德次
消防手　染谷 近吉　鈴木 新造　飯泉 貞次郎
高橋 松次　淺野 外吉　森山 彦兵衛　染谷 安之助
海老原安五郎　高橋 安一郎　高橋 喜三郎　高橋 磯吉
海老原 寅松　森山 多重郎　染谷 森之助　寺田 八郎
高橋 芳太郎　飯泉 丑之助　海老原晋策　鈴木 魁太郎
高橋 新三郎　高橋 林七　淺野 常吉　高橋 倉吉
海老原金太郎　海老 原三郎　寺田 仙吉　高橋 清作
飯泉 熊五郎　海老 原和吉　淺野 末吉　海老原 清作
海老原子之助　龍澤 貞次　高橋 榮吉　森山 仲藏
淺野 安逸郎　高橋 德次郎　淺野 仙吉　飯塚 八造
淺野 專三　飯塚 近造　松本 寅吉　染谷 淺治

染谷　長兵衛　染谷　曠政　海老原源次郎　森山雅樂之助
飯塚　惣吉　飯塚　市造　海老原　峯吉　海老原　長作
森山　義信　海老原　善吉　染谷　萬平　飯塚　熊造
染谷　所重郎　高橋　輝一　染谷　勘造　高橋　勝次
染谷　仙吉　淺野　安造　高橋　精一　海老原　元吉
海老原　角治　高梨　彌平　高橋　清作　小島　幸四郎

第二部長　淺川　幸次郎
小頭　須賀　清司　同　坂　文次　同　荒井　友次
同　須賀　勘作　同　石塚　直吉　同　須賀　輔造
同　野口　長次郎

消防手　坂　定八　須賀　鶴吉　淺川　武八
淺川　宇平　淺川　勝司　日高　梅吉　矢田貝　寅造
須賀　茂助　秋田　岩吉　須賀　水次　石塚　半次
須賀　權次　須賀　政吉　淺川　力之助　石塚　平造
須賀　新造　淺川　益之助　須賀　千代松　淺川　七造
坂　八十八　須賀　源次郎　矢田貝　廣次　坂　榮藏
矢田貝　多重　須賀　甚五郎　荒井　近藏　永田　留五郎
永田　貞造　石塚　與田藏　須賀　兼吉　石塚　庄造
石塚　桑次　須賀　多十　武藤　盛吉　新島　金造
坂　周吉　須賀　源太郎　荒井　龜吉　須賀　儀造
坂　善次　須賀　林藏　須賀　佐助　淺川　松藏
淺川　三次　須賀　源次郎　須賀　駒吉　大塚　長吉
淺川　儀三郎　須賀　定三　石塚　啓造　須賀　茂助

第三部長　坂　謙吉
小頭　出野　市藏　同　岡野　半兵衛　同　塚田　七平
同　坂　庄作　同　寺田　孫三郎

消防手　坂藤　兵衛　稻葉　惣兵衛
飯田　和三郎　飯田　瀧藏　坂藤　兵衛　稻葉　惣兵衛
猪塚　庄作　出野　半次　猪塚　菊次　坂　要助
齊藤　安吉　大久保重兵衛　大久保　儀平　笠川　岩吉
長塚　常吉　坂　清松　中島　伊之助　岡野　庄之助
寺田　守之助　塚田　七平　坂　定次　稻葉　與喜藏
大久保　由太郎　坂　文作

坂　善太郎　寺田　倉松　坂　伴次　猪塚　榮次
寺田　德次郎　寺田　彦次　坂　新兵衛　坂　仙松
大久保作一郎　出野　春吉　輕部　兼吉　坂　留吉
輕部　與兵衛　大久保　元治　齊藤　安太郎　坂　文司
飯田　由藏　塚田孫右衛門　寺田　平助　出野　福次
齊藤　寅之助　坂　文作　稻葉　榮次　大久保　龜吉
村貫　久藏　出野　七平　坂　繁次　岡野　盛作
坂　寅松　猪塚　要次郎　大久保　茂市

第四部長　笠川　喜平太
小頭　海老原　熊吉　同　海老原　覺次郎　同　寺田　定吉
同　鈴木　丹藏　同　倉田　林之助　同　寺田　茂三郎

消防手　間島　和重郎　鈴木　作次　間島　守之助
寺田　清作　富澤　久太郎　富澤　喜一郎　小菅　德次
川村　平七　鈴木　彌七　笠川　常吉　小菅　寅之助
高橋　佐野吉　高野　清三郎　高野　久藏　高野　富藏
富澤　文吉　間島　與市　間島　仙七　高橋　淺五郎
中村　庄太郎　安田　藤松　橋本　半次郎　寺田　爲次
金剛　昭次郎　寺田伊右衛門　中村　熊次　笠見　寅次
笠見　惣作　石塚　作次　間島　德太郎　橋本　仙次
寺田　幸太郎　高橋　高之助　寺田　藤之助　川上　夏五郎
寺田　角次　寺田　源助　川上　直吉　笠川　作治
寺田　信太郎　寺田　初造　笠見　安造　笠見　市太郎
井橋　昇平　間　島平　笠川　久吉　中村　勘次
笠見　藤次郎　倉田　定之助　中村　平次郎　大上　勘兵衛
高橋　吉兵衛　笠川　啓造　張替　武　青木　清次
寺田　龜松　小泉　要一郎　倉田　定之助　渡邊　幸太郎
笠見　藤次郎　中村　寅次郎　大串　清次　海老原　政次郎
間島　徵吉　富澤　義雄　大上　宗太郎　高橋　仲藏
渡邊　德治　笠見　忠太郎　寺田　仙太郎　野口　久作
高橋　仲吉

△第七高井村消防組沿革概要

高井村消防組は、明治の初年、時の里正廣瀨毅一郎氏若衆連の風紀を改

善せんか爲め、火、盗、水防禦連と稱して專ら火災、盗難、水害の防禦任務に當らしめたるより爰に始めて起りしものゝ如し。明治十七年無盡を起して、雲龍水其他一切の機械を購入したるか、同二十九年五月十九日縣令告示第二十六號を以て高井村消防組を公設し、同時に喞筒を改良したり。當時は上高井組、下高井組、貝塚組、市ノ代組、同地組と稱して五組に分れしか、大正五年三月二十日之を變更して、下高井を第一部に上高井、貝塚を第二部に、市ノ代、同地を第三部に區分せり。創設當時の組頭中久木周平氏退職後は、中久木綱吉氏其任に在りて專ら發展を圖たり、大正四年九月一日廣瀬省一氏現組頭に任命せらるゝや、一意專念各部の練習に努力したるを以て、紀律嚴肅、訓練又大に熟達せるに依り大正五年三月廿二日深谷署長縣に申請して、金馬籠使用認可を受くるに至れり、二十六日盛大なる授與式を擧行したり。大正三年舊上高井部長野口倉藏氏は、在職中に於ける盡力多大なるを以て、取手警察署長より銀杯一個を授與されたり。同消防の發屋に盡力したる指導者は左記諸氏なりと、藤岡駐在巡査、麻生村長、野口助役、野口收入役、廣瀬第一部長、野口第二部長、長島第三部長、猪瀬舊貝塚部長、中村舊同地部長

第一部小頭廣瀬誠、染野治助、中久木良雄、麻生榮次、野口酉三、第二部小頭野口隆四郎、野口仙次、野口直藏、猪瀬太次郎、小林謙藏、第三部小頭平澤良助、長塚誠次郎、中村彦次郎、中村忠藏、

四月二日岡堰の聯合大演習に率先參加して名譽の大活動を爲せり、成績他に比して優良なり。

組頭　廣瀬省一　第一部長　廣瀬光太郎
小頭　廣瀬誠　同　中久木良雄　同　染野治助
同　野口酉三　同　麻生榮次
消防手　飯泉精一　麻生房次郎　廣瀬直助
廣瀬淺吉　森田定吉　塚田德次　野口卯市
大谷竹次郎　廣瀬牢次郎　秋谷竹次郎　海老原富五郎
秋谷權次郎　野口政次　秋谷福次　染野元吉
海老原幸吉　宮本德次　廣瀬武一郎　篠原信吉
廣瀬基　海老原初太郎　海老原官五郎　宇田野宮之助
猪瀬保三　野口琴次郎　野口喜一郎　中久木梅人
廣瀬元隆　今泉梅五郎　中久木仁助　秋谷透
宮本宗四郎　廣瀬長次郎　秋谷文吉　宇田野龜次郎
秋谷代吉　廣瀬謙藏　海老原彌四郎　大谷酉吉
海老原吉藏　秋谷廣藏　宇田野勝　森田民治
中久木常太郎　廣瀬啓助　麻生夘之助　森田耕一
宮本喜一　秋谷光一　大谷正男　中久木武茂
飯沼家太郎　下田文作　石山留吉　宮本兵一
井小萩啓介　石塚市之助　石塚仙次郎　廣瀬佐四郎
麻生多四郎　中久木幸助

第二部長　野口藏之輔
小頭　野口隆四郎　同　野口仙次　同　野口直藏
同　猪瀬太次郎　同　小林謙藏
消防手　野口酉松　野口市造　野口春吉
野口松吉　野口元吉　野口德藏　野口善吉
本田福次　山田儀七　山田久次郎　松崎初五郎
中島春吉　山田辰之助　松崎菊三郎　野口清三郎
野口市太郎　野口幸助　野口仁助　根本安三
蛯原芳太郎　中村重太郎　野口直彦　本田市太郎
中村勝平　野口仲次郎　野口太郎　山田新治
野口篤智　蛯原信次郎　野口市之助　野口傳
中村定七　蛯原留吉　高島政之助　山田梅吉
野口定治　小川民藏　猪瀬喜三郎　霜田榮吉
小林善作　市川濱吉　染谷開一郎　染谷清作
染谷仲四郎　猪瀬勝三郎　染谷常藏　霜田由藏
霜田幸太郎　霜田賀一郎　霜田幸助

第三部長　長嶋寅之助
小頭　平澤良助　同　長塚誠次郎
同　中村彦治郎　同　中村忠藏
消防手　長塚喜藏　長塚林治　平澤斧吉
飯塚源藏　平澤勇藏　長塚庄作　蛯原藤吉
蛯原定吉　飯塚由藏　長塚新三郎　長塚理二郎
平澤萬吉　長島堅吉　長島定次郎　長塚安藏
長塚廣吉　長塚惣平　飯塚龜之助　飯塚德三郎

飯塚　通太郎　鈴木　彌次郎　坂寄　佐太郎　蛯原　一郎
長塚　留造　長塚　國五郎　飯塚　文太郎　長塚　角次郎
長塚　虎　長塚　榮一　坂寄　伊之助　飯島　荒治
飯島　常治　小川　政藏　中村　兼吉　中村　倉藏
中村　常太郎　中村　菊次　小川　喜太郎　小川　治作
中村　公一　中村　兼作　飯島　常守　飯島　新藏
小川　末松　小林　松之助　吉澤千代太郎　中村　新太郎
古谷　吉次　飯島　藤四郎　鈴木　龜次

△第八小絹村消防組沿革概要

同村に於ける消防組の起りは、明治四十五年二月時の秋山駐在巡査及ひ有志小菅新之郎氏等か始めて消防組組織の儀を齎らして、之を野本常造、野本喜一郎、野本仁一郎、野本誠吾、小菅仁一郎、諸氏に協議したるに始まれり。當時米價低落の結果延期と爲り、越て大正二年三月縣令告示第百三十六號を以て、公設組織を見るに至れり。區域を新宿とし、組頭に野本常造氏を任命して、組員五十五名と決せしか、翌三年三月十九日縣令告示第九十一號を以て更らに區域を大字杉下に擴張し、組員八十四名に增員せり。同消防組は、創立年間尙ほ淺きに拘らず小團体なるを以て結束頗る强固なり、故に四月二日岡堰に催ふしたる聯合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲せり、成績他組に比して劣らさりき。

組　頭　野　本　常　造　　第一部長　野　本　喜　一　郎
小頭　野本仁一郎　同　野　本　誠　吾　同　小菅　伊市
同　飯島牛松　同　中村喜代松　同　飯野市藏
同　中村勝三郎

消防手

野本　菊松　飯島　才次郎　飯島　與作　山田　勘吉
野本三千三　小菅　繁太郎　鈴木　龜次郎　小島　梅治
石川　喜三郎　染谷　倉三　染谷　倉吉　飯島　嘉造
中村　時次郎　中村　重二　中村　林二郎　中村　留吉
野本　清吉　飯島　藤作　中村　民次郎　野本　助太郎
古谷　治助　飯島　留三郎　古谷　孝三郎　野本　民吉
寺田　近三　小菅　縫一郎　飯島　春次　飯島　藤一郎
染谷　勇次郎　飯島　牛之助　小菅　作治　中村　孝善
中村　源治　中村　紋次郎　中村　勝次郎

瀧村　國本　野本　嘉吉　豐島　貞吉　秋葉　福治
長田　修二　草間　勝馬　豐島　禮一郎　飯島　七郎
中村　武七　中村　作次　飯島　瀨藏　中村　勇吉
飯島　久治　中村　善次郎　瀧川　淺吉　飯島　豐治
鈴木　鉄三郎　稻葉　平藏　飯島　誠三郎　飯島　道太郎
古谷　倉治　飯島　喜曾治　飯島　甚之助　吉田　淺吉
飯島　助治　飯島　源吉　飯島　光松　飯島　治助
稻葉　先松　飯島　仁一郎　中村　金五郎　中村　萬吉
稻葉　治郎作　中村　傳一郎　野本　太一　野本　勘一郎
飯島　謙造　倉持　彦三郎　西尾　半次郎　野本　清吉

△第九取手町消防組沿革概要

取手町の消防組は、維新前弘化年間の頃より既に形成したるものゝ如し其の組織及ひ設備は不完全の者にして因より言ふに足らさるも、大鹿則ち今の新町、上町、仲町、元宿則ち今の片町、臺宿は各獨立して戸毎に男子一人を以て消防手に充てたり、故に其器具は龍吐水、鳶口、梯子、小桶等を使用す、而して之れか統率の任に當りし者は、各町の村役人にして一朝有事の際は各組相呼應して以て火防の任務を果し居れり、斯して維新後明治十一年頃迄該制度を踏襲し來れり。明治十二年初めて都市消防組の發展を見るや、各組之に倣ひ、前の斷續的放水の龍吐水を改めて雲龍水と爲し其他一切器具の改良補充を行ひたりと雖、設備固より今日の如き完全なる者にあらされは、當時又村役人之か統率の任に當り居りし者の如し。全十九年九月十一日縣令甲第八號を以て、消防規則を發布せらるゝや、則ち該規則に基きて始めて公設消防組と爲し新町を一番組に上町を二番組に、仲町を三番組に、片町を四番組に、臺宿を五番組に編成して、各組毎に組長、副組長、小頭、副小頭の役員を設けたり、此時未た喞筒の設備を見さりしも、高張、旗、梯子、指叉、鳶口、等は勿論、法被、火事頭巾の類に至る迄、盡く新調整頓せるを以て、茲に舊事の制度を一變するの大面目を發揮するに至れり。全二十七年勅令第十五號を以て消防組規則を發布せらるゝや、取手町消防組は、全年八月縣令第三十四號に依り取手町消防組組織の認可を得て人員を二百二十六名と爲し同時に取手部、臺宿部に區分せり。全二十八年二月十九日縣令第五號を以て、更らに部名を新町部、上町部、仲町部、片町部、臺宿部に更め

しか後又人員を増加して現在の部名に變更せり。於是乎、從來の雲龍水テリキ水を改良して、各部共新に喞筒を購入するに至れり、而して公設組織と同時に任命されたる組頭は寺田文四郎氏なり。仝三十九年七月七日寺田文四郎氏辭職に付、寺田臺二氏組頭に任命ありたり、現組頭田中太七氏は寺田氏後任として大正三年四月就職したり。大正元年十二月二十五日各部共、紀律嚴肅、訓練又大に熱達して他消防組の模範なるを以て時の署長岩田常松氏之を縣に申請し、金馬籠使用の認可を與へられ、翌二年一月小學校庭内に於て盛大なる授與式を擧行したり。

四月二日岡堰に於ける聯合大演習には卒先參加して名譽の大活動を爲せり、成績他に比して省らす。

組頭　田中太七　第一部長　仲間伊太郎
小頭　吉本浦吉　仝　根本庄太郎　仝　根本喜平

消防手

鈴木清作　小川角次　海老原慶次郎　麻生太一
竹内吉藏　鈴木彦次郎　根本鉄太郎　小川岩松
高橋英　青木清太郎　杉浦勝藏　根本竹次
根本由太郎　根本伊三郎　根本小治郎　根本與利郎
根本吉重　佐藤庄吉　高島定吉　細川要藏
根本八重郎　小島啓次　成島三次　根本唯一郎
齋藤利平　海老原幸吉　豐田春吉　麻生吉三郎
海老原庸之助　飯島由太郎　須藤照吉　秋田淺吉
長谷武雄　加藤清吉　染野吉太郎　山崎晋一郎
小間市太郎　麻生三郎　根本健太郎　根本兵逸
寺田三平　染野德次　増田高　伊吹竹三郎

第二部長　寺田喜七

小頭　古谷新藏　同　染野長之助　同　染野榮相

消防手

川島作太郎　千濱新吉　根本仁助　齋藤幸太郎
大野文四郎　海老原房吉　根本鉄之助　海老原金太郎
田中林之助　飯原源助　飯田長吉　中村與助
山崎幸助　内田歌治　寺田清四郎　田中常吉
中村金治　大住幸太郎　木村宗四郎
古谷彦造　赤塚作太郎　田中政造　齋藤新吉
小黑德　岩田六藏　永井孝兒　塚本六藏
永井竹次郎　寺田勝　飯田喜一郎　野口銀造
長谷川靜一　清水文平　飯田準一　伊佐間米吉

第三部長　根本壯一郎

小頭　寺田甲一郎　同　齋藤牛松　同　櫻井長太郎

消防手

村井安五郎　水戸部市郎右衛門　田中清吉　香取源吉
倉持三郎　内山佐一郎　豐田竹治　鈴木濱吉
伊勢喜太郎　赤塚幸之助　齋藤松之助　根本準兵
染野熊吉　高橋開　小菅清七　田中六次郎
須賀新吉　大川万之助　相原竹次郎　北川市右衛門
坂巻德太郎　張貝吉平　齊賀德太郎　寺田貞吉
石神庄吉　染林林之助　石神庄市　石神辰治郎

第四部長　倉持祐次郎

小頭　竹村喜平　同　田中忠兵衛

同　山崎定助　同　丸山芳太郎

消防手

山本元吉　薗田倉之助　香取伊三郎　寺田松太郎
依田謙三　谷澤安兵衛　寺田茂太郎　齊藤作次
清家平藏　倉持宮　中根市太郎　中村濱次
染井政　薗部秀松　染谷貞吉　海老原好之助
和田作太郎　笠川末吉　山本清三郎　吉本忠藏
水戸部學司　香取銀次郎　鈴木清次郎　海老原善
清水寅吉　小池政吉　綿貫新八　一重米吉
染野榮次郎　阿川銀之助　新井廣吉　金山政吉
麻生喜四郎　吉川新一郎　寺田治三郎　高島國之助
色川啓藏　前野演吉　北川仙之助　鈴木菊次郎
第五部長　塚本藤吉郎　植村國之助　永井久吉
小頭　齊藤歌之助　同　染野仁助　同　岩田幸次郎

消防手

染谷三魯　高島千代松　倉持重大郎　染谷染五郎
海老原樣之助　寺田周助　齋藤壽作

倉持　德藏　染谷　富藏　齋藤　幸次郎　宮本　兵之助
伊藤　善太郎　笠川　熊吉　佐藤　丑太郎　藏持　繁太郎
齊藤　秋三郎　小池　熊太郎　稻葉　清吉　中村　久次郎
森　忠五郎　宇田川吉五郎　川上　幸太郎　稻葉　兼吉
笠川　喜助　染谷　慶助　染野　高次　笠川　留吉
倉持　清次　仲　浦次

△第十布川町消防組沿革概要

布川町消防組は明治八年頃の組織に係り、最初字内宿、中宿等にて率先して、機械器具を購入したる爲め、漸次全町に及せり、則ち其組名を左の六組とし、而して各組毎に頭取以下の役員を置き、毎年器械器具の点檢を行ひ並に各組適宜の初出式を擧行したり、

う組（内宿）　は組（濱宿）　な組（中宿）　か組（上柳宿）　も組（下柳宿）
み組（馬場）

同十三年に至りて新式の機械器具を講入し、同時に各組の服裝を整へたるを以て是に初めて各組相合同して初出式を行ふことゝ、相互間に援助することを協約したり、其町村左の如し。

布佐町、大森町六軒、木下町、同十八年千葉縣布佐町、六軒、木下町の各町と消防聯合會なるものを組織し、所轄警察署の認可を得て有事の際に於ける相互の應援區域を定め、規則を制して毎年一回宛布川木下六軒布佐の順序にて演習を行ひて、消防に關する諸般の事項を協定せり。同十九年縣令第八十號を以て各消防組に規約を設け、大に組織上の大改良を加へて、其の面目を一新せり、當時消防夫と稱するものは、老幼の別なく、各家毎に從事せしめたり。同二十七年二月勅令第十五號に依り布川消防組を公設して左の如く改めたり、而して消防夫を三百名と定めき一部を約五十名とし、之に部長一名、小頭三名乃至五名、頭取一名を置きたり、頭取は當時町長之を兼任せり。第一部内宿、第二部濱宿、第三部中宿、第四部上柳宿、第五部下柳宿、第六部馬場。同三十一年一月千葉縣布佐、六軒、木下との消防組聯合會を解き、單に出場區域となせり。同三十五年消防組の一部に變更を加へたり、且つ從來の機械器具は勿論一切の經費は之を町の負担とせしが、當時水害を蒙りたる爲め、町費の支出困難なるを以て、爾來器械器具を各部專屬のものとすると同時に其負担も又各部に於て之を支弁することゝせり。大正二年四月三十日各部共紀律嚴肅、訓練又大に熟達して、他消防組の模範たるの故を以て、岩田署長之を縣に申請し、金馬籠使用認許を與へられたり、十月十九日小學校庭内に盛大なる授與式を擧行したり、當日の表彰者左の如し。

組頭長谷川政次郎、消防手黑田金吾、鳥居金太郎、大正四年十月左記の部長並に小頭に對し、本縣より感狀を賜はる。　部長鈴木嘉七、草川榮吉、杉野喜太郎、小頭荒木健太郎、渡邊林吉、豊島利吉、大竹半藏

小倉金次郎、林　茂八、明治二十七年以來の組頭海老原平作、香取謙一郎、長谷川政次郎三氏なるか、現組頭杉野吉三郎氏は鋭意熱心發展を圖りつゝあるを以て成績頗る良好なり。四月二日岡堰に於ける聯合大演習には率先參加して名譽の大活動を爲せり、成績他に劣らす、因に當日の出動人員は布川組に限り選拔したるを以て二部九十名の少數人員なりき。

○印當日出場者

組　頭　○杉　野　吉　三　郎
第一部長　○鈴　木　半　四　郎
小　頭　○玉　村　源　吉　同　○渡　邊　彦　太　郎
同　○鈴　木　清　次　郎　同　○鈴　木　保　太　郎
消防手　恩田　才次　宇佐美角之助　渡邊　幸吉
伊藤　三部郎　川上　運平　大野　豊太郎　平野　三和次
伊藤　治助　久保田　廣吉　○坂本　豊吉　○大貫　倉吉
○石和田　忠吉　○伊藤　英助　矢澤　道之助　○加藤　梅吉
杉野　秀男　伊藤　齊太郎　○櫻井　喜太郎　○伊藤　松太郎
渡邊　群一郎　野口　太平治　中川　與吉　渡邊　定吉
小島　梅太郎　石井　末松　伊藤　庄作　荒木　倉吉
○田口　已之助　○山崎　儀一　○中野　定吉　齊藤　辨太郎
矢部　晉吉　渡邊　伊助　小倉　仁三郎　坂上　亥之助
山本　倉吉　宇佐美　榮吉　中野　喜一郎　三角　源助
山下　啓次郎　高橋　清吉　小倉　幸吉　若泉　房吉
第二部長　○新　井　忠　吉
小　頭　○横　山　耕　作　同　○杉　野　庄　助
消防手　秋本　富太郎　染谷　兼吉　鳥居　欣二
○海原老　丈助　花島　泰一　○植村　清作　松丸　留吉
○五代　清　植村　健次郎　秋葉　平吉　大塲　清吉

田口　瀧藏　石引　德次郎　玉村　寅吉　山中　福太郎
澤田　金次　川北　松次郎　○友野　勝太郎　飯塚　學太郎
川村　源助　五十嵐　源吉　○根本　幸助
第三部長　○和田野　信吉
小頭　○新井柳之助　同　○鈴本淺次郎　同　玉村眞三郎
消防手　榎本　次郎吉　花島　長作　星野　貞次郎
○久保田義太郎　石塚　莊作　○佐藤　榮助　市川　政藏
石引　保　杉野　哲三郎　○飯野　市太郎　○杉野　益平
○根岸　藤一郎　杉野　鉄五郎　酒卷　保　中谷　淺吉
○永田　豊吉　若泉　房治　○田口　高次郎　小田部烝太郎
○荒井　平次郎　中村　重太郎　新井　儀三郎　稻垣　金藏
花島　卯之助　草川　長造　市川　勘藏　長谷川　清
根岸　謙藏　戸坂　由松　蛭田　清作　黑田　金吾
中島　謙次郎　白戸　半四郎　木村　德三郎　山口　政吉
○久保田　廣　貝塚　助次郎　佐藤　寅吉　鈴木　德次郎
根岸　榮次郎　五十嵐金次郎　中臺　半藏　草川　清
渡邊　佐市　草川　由松　二見　龜太郎　矢口　大吉
五十嵐　茂吉
第四部長　○岸本　良助
小頭　○石川文七　同　○矢澤　豊吉
同　○豊島　啓助　同　○高野寅次郎
消防手　鳥居　金太郎　伊藤　榮次郎　中村　高之助
○酒卷　末吉　○三谷　仙之助　○山崎　德太郎　○佐原　信吉
久保田　治作　○永井　潔　西峰　與三郎　根本　儀助
○大竹　健壽　山口　高藏　三宅　信一　○藪田　光
増田　定吉　森田　吉三郎　石井　捨二郎　辻内　明
染井　良助　渡邊　常吉　石引　寛　杉野　彌作
福田　甚三郎　久保田　謙　○五代　行　○玉村　勝太郎
石川　勝三　飯塚　京之助　稻葉　忠次郎　中川　廣治
○久保田林之助
第五部長　○居原四方吉
小頭　○田上　尚　同　○金子　利平　同　○杉野　寅吉
消防手　須藤　德太郎　久保田　德松　森杉　清吉
中泉　森之助　酒卷　慶吉　○今井　竹次郎　○長谷川　平八
○關口　伊平　○大野　倉吉　○久保田　文策　○久井　順造
○久保田賢之助　宮本　泰助　古谷　平作　○杉野　豊吉
田上　源　五十嵐　長藏　久保田與三郎　○久保田　耕作
○戸村　福太郎　渡邊　松兵衛　杉野　貞造　後藤　岩松
酒卷　兼吉　岡田　與市　櫻井　德次郎　吉野　德松
古谷　源太郎　小能　丑松　久保田幸輔　久保田清之助
市村　八十八　川村　市太郎　久保田　貫造　戸村　勇太郎
第六部長　○海老原謙吉
小頭　○白井源太郎　同　海老原　長
同　○白井榮太郎　同　○伊藤清太郎
消防手　○飯田　常三郎　○鈴木　島　○香取　德次
○河村　宗三郎　○白井　保太郎　下山　長司　永田　盛良
○森杉　林之助　香取　善吉　武藤　子之吉　小島　己之助
○角永　幾太郎　○鳥居　米吉　香取　市平　森杉　瀧藏
遠山　嘉一郎　○野田　良助　根本　彌助　香取　得太郎
○渡邊　雪三　白井　初太郎　櫻井　寅次郎　池延　惣兵衛
菊地　直太郎　○白井　太一　矢口　士兵　○木村　高之助
○森杉　安藏　西峰　常太郎　香取　啓助　○香取　平吉
豊島　音吉　野田　清次郎　豊島　友吉　米元　重郎
○香取　文次郎　木村　平作　海老原　與助　武藤　松五郎

△稲戸井、大野、大井澤、小絹の四消防組に對し四月二十八日付を以て金馬簾使用の認許を與へられたりと。

大正五年五月五日印刷
大正五年五月八日發行

大演習紀念寫眞帖奥附

定價金五拾錢

不許複製

著作者　茨城縣北相馬郡取手町九八四番地　吉原格齋

發行者　茨城縣北相馬郡取手町四二二番地　手塚仙之介

印刷者　東京市神田區淡路町一丁目一番地　加藤善之烝　電話本局一八六四番

印刷所　東京市神田區淡路町一丁目一番地　加藤寫眞製版所　電話本局一八六四番

發賣所　茨城日報取手支局
取手　報知新聞出張所
町　取手寫眞館

終